大正六年九月十四日（郵便物認可）
大正十三年三月一日發行（毎月一回一日發行）（第七輯第三號）

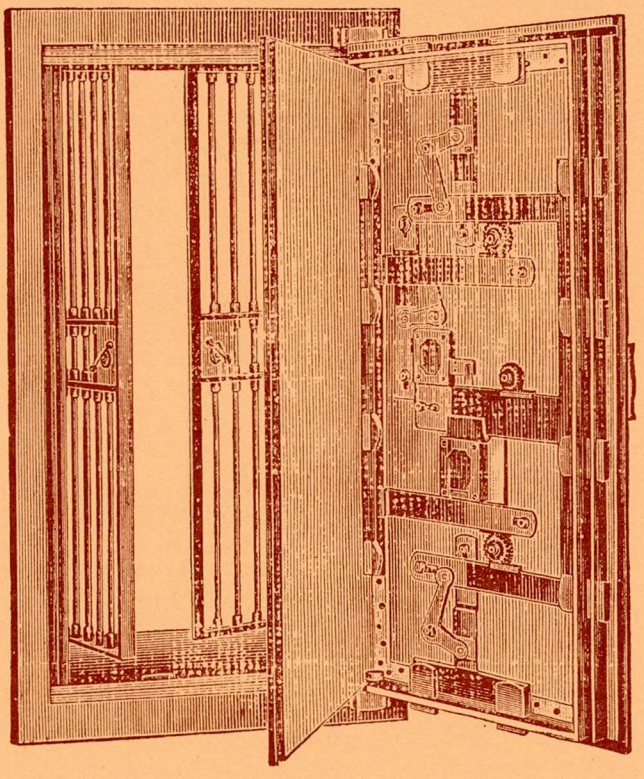



第七輯第三号

日本建築協會

大正十三年三月一日

耐震耐火 理想鐵扉の出現



金庫扉 金庫製造界の權威

# 大谷金庫店

店主　大谷榮之介

顧問工學博士　細木松之介

獨逸人技師　ア・シューハルト

營業所　東京市京橋區岡崎町二丁目
京都市松原通東洞院東入
大阪市東區淀屋橋筋（道修町）
神戸市楠町六交叉點西

工場　東京第一工場　東京市京橋區佃島壹丁目
仝　第二工場　仝　深川區東元町
京都分工場　京都市松原通り大宮西入

# 會告

## 入會金免除の件

當協會本年二月例會の決議に依り新入會者の爲に當分の間入會金を免除することになりました此際奮て御入會を希望致ます尙會員諸君の新入會者御勸誘を切に御願致ます

大正十三年二月

日本建築協會

# 會費其他御拂込に就いて

これまで會費其他の御拂込は集金郵便に托しておりましたが局の方で引受番號の誤記や（御拂込みになりますと局よりはお名前の代りに番號のみ通知して來ます）協會以外の分を誤配されたりして全く郵便局の過失による間違が往々ありまして之が爲め時に或は二重請求などの不都合を惹起し又皆樣の方でも御不在中の事などありまして双方ともに遺憾の點が多くありますのでこれからは尤も安全にして且つ正確な**振替貯金を御利用下さる樣**特にお願いたします

本號よりは振替用紙を挿入いたしますが皆樣の方で御利用下さる迄は從前通集金郵便で御請求いたしますから若し振替で御拂込み後に參りましたならば其旨局員へ御傳への上御斷り下さいませかゝる場合は決して二重請求いたしたのでありませんから御含みおきを願ひます

それから毎月雜誌が配達先不明で返戻されるのが可なりあります之は御面倒でも御移動の都度是非新御住所を（御通知の際は單に何々市外とせずになるべく委しくお書添へのこと）御知らせ下さいます樣併せて御願いたします

# 特別會告

## 第四回講習會開催

本協會ハ既ニ本會ノ事業トシテ幾多ノ施設ヲ實行シ着々堅實ナル發展ヲ爲シ來レリ殊ニ方今ノ時勢ニ鑑ミ建築教育ノ急務ナルヲ感シ之ニ關スル講習會ヲ開クコト已ニ三回、非常ノ好成績ヲ得タリ尙引續キ昨秋開催ノ豫定ナリシモ關東大震災ニ際會シ爲ニ延期ノ止ムナキニ至レリ今回第四回講習會ヲ開催シ耐震的建築ニ付諸君ノ修養ニ資セントス、幸ニ本協會ノ主旨ニ熟心ナル御賛同ヲ得ムコトヲ望ム

追テ聽講希望者ハ左記次第書及聽講規程通覽ノ上**三月十八日**迄ニ本協會事務所宛申込アリタシ

尙會場ノ設備ニ限リアルヲ以テ申込者滿員ノ節ハ遺憾ナカラ謝絶スルコトアルヘシ

大正十三年三月

**日本建築協會**

大阪市北區堂島濱通一丁目堂島ビルヂング內（電話北四二九一番）

### 第四回講習會次第書

一、會　　期　自大正十三年三月十九日至仝年三月三十一日（十日間）（祭日、日曜日ヲ除ク）

二、時　　間　毎日　自午後六時半至仝九時　二時間半

三、會　　場　大阪市立工業學校內

四、課目及講師

イ、鐵筋コンクリート構造主要部ノ耐震的强度計算法（十五時間）　大阪府建築技師　八木幸次郎君

ロ、鐵骨構造主要部ノ耐震的强度計算法（十時間）　工學士　關場茂樹君

（備考）前記講師課目及會場ニ支障起リタル場合ハ變更スルコトアルヘシ

### 第四回講習會聽講規程

一、聽講申込書ハ本協會事務所ニ之ヲ備フ申込ノ際ハ本協會會員及賛助員ハ其ノ旨特記スルヲ要ス但シ本協會會員及賛助員外ノ人ト雖聽講妨ナシ

二、聽講者ハ左記ノ規定ニ依ル聽講料ヲ納入スルヲ要ス

| | | |
|---|---|---|
| 本協會會員及賛助員 | 聽講料 | 金參圓 |
| 外來聽講者 | 聽講料 | 金五圓 |

但シ講義用印刷物ハ無代配布スルコトアルヘシ

三、聽講料ハ**三月十八日**迄ニ申込ト同時ニ本協會へ拂込ヲナスヘシ聽講料納付者ニハ聽講券ヲ交付シ領收證ニ代フ但シ聽講料ハ事情ノ如何ニ拘ラス拂戻ヲナサス

四、講習會出席者ハ聽講券ヲ携帶スルヲ要ス聽講券ハ他人ニ之ヲ貸與スヘカラス

五、聽講完了者ニハ請求ニヨリ聽講修了證ヲ交付ス

追記

講習會時間割ハ別ニ之ヲ定ム

以上

# 高級昇降機

# エー・ビー・シー

▼現在ノ最大建築ニ使用サレ

▼今後ノ高層建築ニ採用サレントース

## 最近御採用御先方御報告

| | |
|---|---|
| 丸ノ内ビルデンク | 十一臺 |
| 日本郵船 | 八臺 |
| 日本興業銀行 | 四臺 |
| 中外商業新報社 | 一臺 |
| 特許局 | 一臺 |
| 阪急電鐵 | 一臺 |
| 泉尾土地會社 | 二臺 |
| 大學病院 | 二臺 |
| 松竹キネマ座 | 二臺 |
| 神戸商船ビルヂング | 四臺 |
| 明治海運ビルヂンク | 四臺 |
| 淺野物産 | 一臺 |
| 村井銀行神戸支店 | 一臺 |
| プラナモンド社 | 二臺 |
| 内田ビルヂング | 三臺 |
| 明治屋 | 二臺 |
| 其ノ他 | 拾臺 |

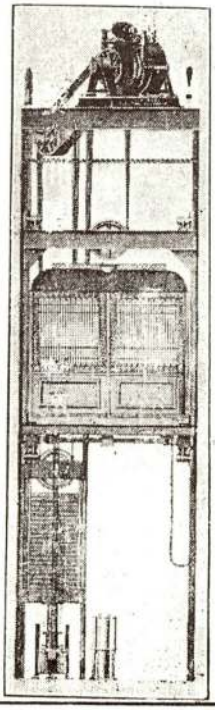
# A.B See!

## ELECTRIC ELEVATOR CO.

220 Broad Way New York

ESTABLISHED IN 1883



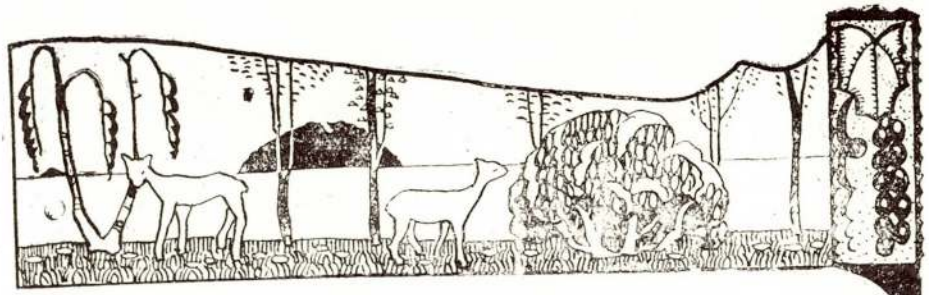


*Esteemed enquiries solicited!*

東洋總代理店

内田商事株式會社機械部

東京　神戸　大阪



論說 | 學說 | 研究 | 都市

# 建築と社會 第七輯第參號目次


口繪 野村銀行々舍

口卷頭 近代に於ける繪畫界の傾向……

△建築物の持つ社會的意義に付て……伊藤正文……二

△都市計畫の實行今果して如何？……工學士宗兵藏……六

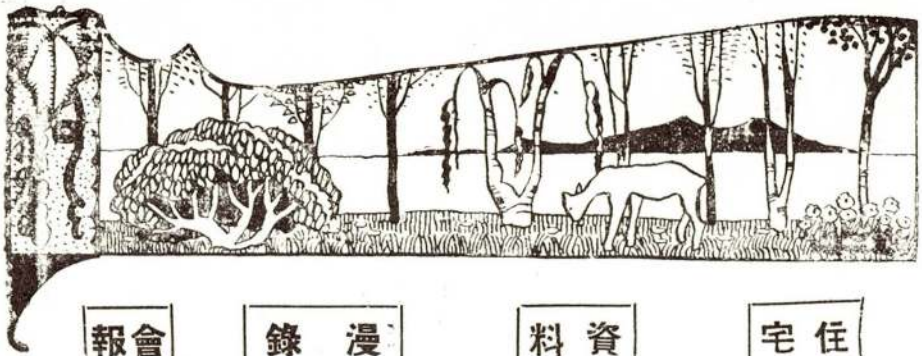
△震災後の桑港と帝都の新計畫に付て……建築士津田鑿……二

△「コンクリート」より「鐵筋コンクリート」まで（二）……中村鎭……一五

△建築藝術に於ける歷史の問題……山崎萬壽夫……二四

△近代都市への蔑視……春日野須摩雄……二九

△震災と都市問題雜記……楠原祖一郎……三五



## 住宅


△新住宅に相應はしい庭樹……方　米治郎・四
△カリフオルニアの南歐風住宅の内部裝飾……川村種三郎・四五


## 資料


△關東方面震火災被害視察日誌(三)……小川安一郎・五三
△あばいごすの遺跡(續『埃及游記』(三))……工學博士・天沼　俊一・五九


## 漫錄


△Mの言草……偏心圓・六八
△復興他話糊塗……工學士・本多　二郎・七三
△建築の創造的理想……水町與志雄・七六
△建築叙情篇……廣岡峰太郎・八三


## 會報


日本建築協會二月中記事……




GOOD

和洋家具の製作
室内裝飾の設工
其他一般木材加工

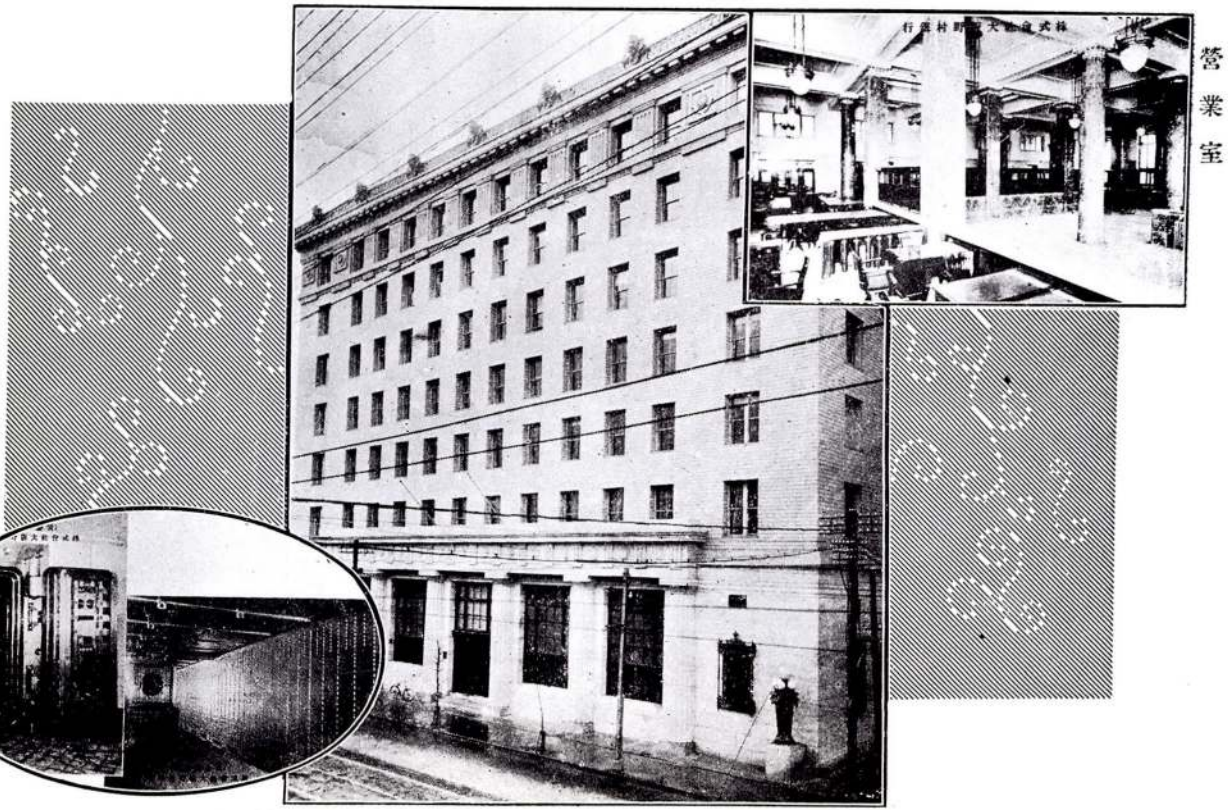
合資會社

# 內外木工所

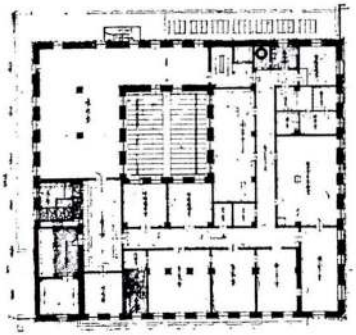

營業部
陳列所
本店及工場

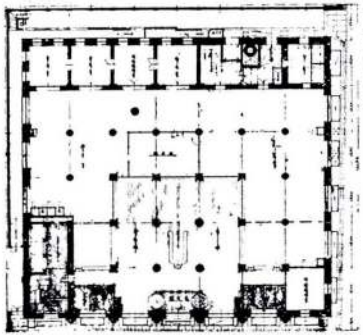
大阪市東區北久太郎町四丁目心齋橋筋
電話園本局一七三六番
大阪市西區市岡町六七四
電話園西三〇六〇番


FURNITURE



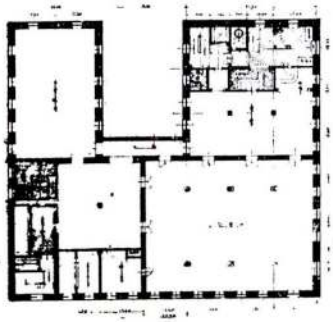

竣成を告げたる大阪野村銀行々舎

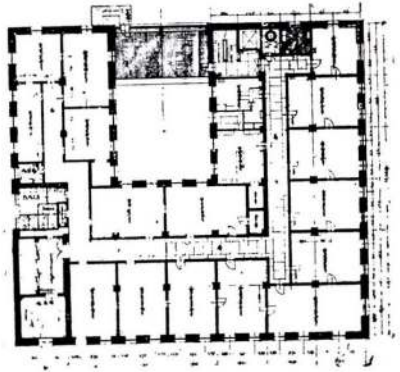




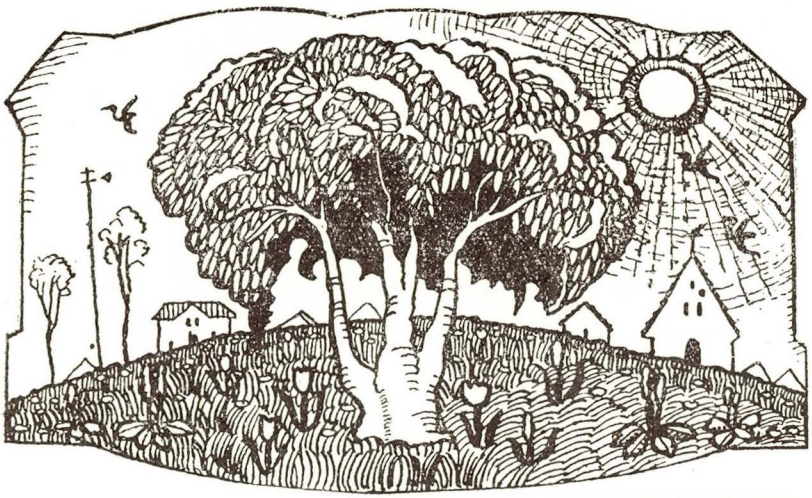
第四階平面圖



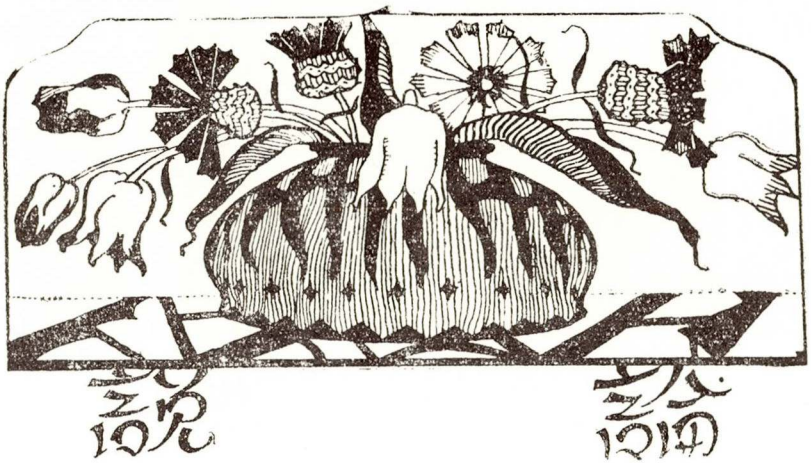




二　の　そ



近代に於ける繪畫界の傾向が、種々の變遷を有つてゐることは、今此處に敘說するまでもない周知された事實である。建築樣式の近代に於ける主張も亦繪畫のそれに、殆むどその思想的傾向を等ふしてゐるようである。吾れは無學にして、未だ建築の虛無主義なるものが何であるかを知らない。所謂印象派なるもの、思想傾向の、果して建築の合目的、或は效用若しくは實用主義の屬性を何處まで妥當し得るか、といふことを疑はざるを得ない。若し强ひて謂はば、現代の行き詰まれる建築樣式に一路清新の未來を打開するといふ意義に於ける未來派なるものは、少くとも我建築界には存在の意義があるであらう。されど、それら凡てを通じての最先な問題は、學的な認識そのものゝ問題である。認識には一切の思惟の眞理可認性に對する素朴的信賴に立つ獨斷論もあれば、何かの對象に關して普遍妥當的判斷を獲得することは一般に不可能なりとする懷疑論もあり、思惟の認識可能性に對する信賴の根據と達域とを明瞭にして、その凡ての主張に正當性を附與しようと努める批判論もある（メッサア氏の「認識論」）殊に、ウイリアム・ゼームス氏の所謂實用主義も亦認識論の一領野である。繪畫界に、建築界に、思想傾向の主張を明に聽くことを得るも、その傾向の淵源たる認識論上の主張を詳にし得ざるは一體怎うした譯であらうか。……（郊郵）




# 建築物の有つ社會的意義に就いて

伊藤正文

建築は何かの社會的活動（經濟的活動と云つてもいゝ）の手段に用ひらるべきものではない。それ自身に於て目的を有つ事は云ふ迄もない事だ　建築の本來の目的が達せられた時に、建築は宗教であり美であり、生活であり、文化の尺度ともなる。建築が藝術として完成した時に、人格を獲得する、人格化され得る。

社會の傾向は建築を道具扱ひにする事に於て誤謬である事は藝術は遊戯であると考へてゐる事や、少くとも藝術は甘つたるい所作だ位に考へる事と同じく輕卒であらねばならない。

建築が資本の程度を示すバロメータアであると考へられたりする事は、建築それ自身の本質から云へばまるで他所の世界へ手段として利用された樣なものだ。建築は資本主義の産物ではないし、社會主義の道具でもない、建築の性質として時代の文化の尺度の意味を有つ。

それ等の點に誤解があつたりする事は、一般の藝術に於てさへ、歷史的に見ると政治的繋搏から資本的繋搏へと移されて來て、未だにそれ自らの目的へ自由に進み得ない樣な境遇にある事から起つて來ると思はれる。

只量に於て大なるビルディングの建造が資本の大を誇る事に於て非常に効果があるものならば、破產に瀕する質屋が政策的に庫を建てる事は矢張資本の豊かさを示す表現法として感心しなければならないことになる。しかし建築は資本の爲の武器でもないし、政治的手段の材料となるべきものでもない。

一例を擧げるならば朝鮮の光化門が破壞される可き運命にあると云ふ事は、政治が藝術への扞渉であるとして心ある人の歎く所であつた事を記憶する。

ある醜惡なる意匠になる大ビルディングが都市の中央に建てられたと云ふ事が、一部の若い建築家の悲しい眼を以つて見なければならない事であつたこともある。

建築する事の動機は、勿論建築主の種々なる利益目的を考へての事ではあるが、建築の目的のすべてゞはない。何故ならば建築の美までが建築の功利の意味の内に含まれると云ふ事は出來ない。若しそうであるとしたならば、建築の美は商賣の信用と廣告の爲の手段に用ひられる事になる。そこで建築がよき意匠の許に充分に建築美を有つ事が、よき社會的意義を生ずると云ふ點について云つてゆきたい。しかしながら建築の美は社會政策の道具ではなく、建築そのものゝ本來の目的の一つの條件を滿すべく與へられたものであるとしての上で、建築美がよき社會的意味を建築に與へると云ふことである。

小學校や中等學校で唱歌や音樂を教へることが小供の感情の發育の爲であり、温和な性情を與へる効果があると、教育家が云ふのと同じ樣に、よい建築が、よい心理的効果をもたらすと云ふ事も至極もつともな事だ。けれども建築の美と云ふ事が、もつと現在の社會に直接的に効果があることが忘れられ勝ではあるまいかと思はれる。

歐洲へ旅した人の話を例にして云ふと、ヨーロッパの國々の大邸宅に對するその國の勞働階級者の感情、態度と、我國のそれとを比較するならば非常に差があることを見出す、前者に於てはうらやみ、反感等の社會的感情の以前に己に美に於て徹底する。邸宅の大さや華かさに伴ふ建築美の前には快い觀賞が殘る。經濟上に高價な建築も資本の大を示さうとする程露骨でない、そこに面白味、暖かさを感せしめる意匠の苦心がある。

後者の或者には黑い高塀の上に劒先を並列させたものや、コンクリート塀の笠木の上面に硝子片を植えた構へをしたものを見る。それ等の邸宅に對して誰が好感を持ち得るものでもなし、不快な感じを與へるのが當然であらう。成るべく開放的に見えて美しいと思はれる住居の廻りには、とげの生えた鐵條網が張られてあつた。街にはいやが上にも會社の權威を誇張した樣に見える玄關のある建築もあつた。そうして多くの建築は美しい建築を作らうとするよりも、その外觀に於て、權威とか、資本の大さとかを第一に表現する樣に心掛けられてゐる樣に見える。美の以前に反感と不快を與へる。それはいまはしい社會的階級的の反感を却て助長する不用意な意匠だ。

まことに美しい建築ならば反感の以前に美がある。歐洲に於ける大邸宅のあるもの〻如き、建築の美しさは階級的反感や非藝術的不快を超えて觀者を抱擁するもの〻例であらう。

惡意に誇張されて居ない、或は社界的活動の手段に用ひられて居ない、美しき建築に對して、何の反感を感じ得ようか、よき建築はよき社會的意味を有つと考へられる。

『建築思想の布及』と云ふ言葉は度々仲間できくことであるが、如何なる建築がよき意味を有つか、如何なる建築が美しい建築であるかを第一に明にする考を普及する必要があるのではあるまいか。

又一面に於て現今の都市計畫には美觀はそへ物として取扱はれてゐる觀がある。都市計畫には藝術のうるほいが殆ど無い樣に見える。その見え方が誤りであつたとしても、都市の美觀の根本にふれた學說

や意見を聞かない事は確である。計畫の統計や技術の研究の前に社會心理の鋭い批判が要求されてゐることを忘れてはならない。

都市計畫は科學の都市を作ることではない、文化都市の建設計畫である事が理想でなければならない。

△

「人生是れ一場の空夢のみ」と
悲哀なる詩調にて唱ふを休めよ
蓋し眠れる靈魂は死せるもの
人生の事物は其外觀の如くならざればなり。

△

人生は實相なり。人生は眞面目なり。
而して墳墓は其目的地にあらず
「汝は塵塊なり死して塵塊に復歸す」と云ふも
是れ固と形骸の事のみ靈魂はさるものに非ず

# 都市計畫の實行今果して奈何に？

工學士 建築士 宗兵藏

○都市計畫法の實施されて以來、未だ數年を經ない今に於て、殊に日本の國情としては彼程な大事業を幷う性急に云爲することは甚だ理解のない業ではあるが、その業績の實際に鑑みると、自分は何としても、都市計畫の實行が進捗しないことを奮慨せざるを得ない。是を、東京に於て觀るも、大阪に於て見るも、將た、その他の四大都市に於てみるも、孰れとして都市計畫實行の相當に纏りつゝあることの餘りに遲滯あるを見ざらむとするも得ないのである。

○尤も、東京は、斯る大禍に遭遇し、横濱市も同樣にして、その復興事業と都市計畫實行との關係は、相當の順序を立てゝ掛らねばならぬから、他の都計施行都市と同樣に論ずる譯には行かないが、是れとても、災後既に半歲を經たる今に於て、その基本的な問題である處の道路問題すら尙ほ遲々として決しないのは、一體怎うしたのであらうか。

○東京及横濱市は、復興局なる特別機關の管掌によりて、復興事業を遂行されるのであるが、それにしても、既定の都市計畫なるものを度外視する譯には行かないから、東京や横濱は、斯る大災害に因つて全都の覆滅を來したことの如何にも同情に堪へないとは云へ、今回都市計畫實行の荏苒たる實狀より觀れば、件の兩市は、都市計畫をずん〳〵進めて行く上に絶好な機會を得たものと謂つて可い。斯の點に於て、過般の大禍は、他面に幸ひをその焦土の裡に產み附けたものと解して差支へない。

○然るに、我大阪市に於ける都市計畫の實狀は怎うであらうか、わたくしは顧みて、聊か奮慨に堪へないのである。申すまでもなく、災禍は不用意の裡に芽ぐみて、その襲來は旦夕を保し難いのである。幸

にして曩日の災禍圏外に措かれた我大阪も、何時關東の覆轍を踏むか圖られない。從來幾多の實例が示せる事を正直に受け入れるならば、現在の我等大阪市民は、當さしく、爆彈を抱きつ焚火を爲てゐるようなものである。殊に諸般の事情より推考すれば、大阪が關東震火災の如き禍害に遭遇した場合は、その慘害の恐らくは東京横濱のそれ以上なることを豫斷して差支へないと想はれる。

○大阪の市會議員や府議の都計委員諸氏は、先日東京方面の災後の狀況を視察されたそうであるから、大阪の都市計畫に就いては相當に暗示を獲られたと考へられるが、扨て、その實行に就いて、先日の大阪市會に提案された都市計畫の豫算なるものを覽るに、漸く道路の擴張と橋梁の修築位なもので、その遲々なることの舊態依然たるには左して渝りはなかつた。

○我大阪市の採るべき急務は、關東の災害に鑑みて、一旦震火災に蒞み、その災害を出來得る限り少くすることであり、是れが急務中の急務であらねばならぬ。されば、市當局者も、今一段と進むで、大々的實行の畫策を樹立して、可及的迅速に遂行されたい。

○併し、幾等焦眉の必要に迫られてゐるとても、所謂『無い袖は振れない』のである。災禍の襲來は勿論時を圖られない。或る程度までは災禍の齎す慘害を豫見し得ても、財力の容さないことは竟に自ら亡ぶるの外はない。けれども、我等は茲に發奮を要する。市は今や都市計畫の財源を市債に仰ぎて、第二回募債中であるが、到底、市理事者だけで大成の難しい事は判り切つたことである。茲に於てお互に大阪市民として考へなければならない問題を、一人々々の前に提供されてゐるのである。

○日本の何れの都市に於ても同樣であるが、殊に大阪市民は、都市計畫に對して甚だ冷淡な觀がある。日本建築協會なども都市計畫に就いての宣傳を爲たこともあるが、市民のアタマには恐らく貽つてはゐまい。けれども、市民の最も常に心して居らねばならぬことは、お互ひの財產も生命も、甚だ不安の狀態に置かれて在る、といふ大阪市の現狀なることである。

開發誘導すべきかゞ問題である。斯の點に於ては、勿論種々と考へられることもあらうが、先づ以て、都市計畫と市民生活の關係を、現實に充分なる理解を有たしむることである。斯る點に於ては、遺憾ながら大阪市の當局者も、市民の先覺者も甚だ足らざる處があるように憶はれる。

○亞米利加の都市計畫――と云つても、市俄古市の如き、その宣傳の奈何に誠實であつて、奈何に巧妙であるかは少しく斯市の消息を知る者の等しく肯定する處である。謂はゞ、市民は都市計畫そのものを敎育されなければならぬ。然るに、我國のそれは、都市計畫法實施以來年所尙ほ淺き關係にも因るであらうが、殆むどそうした施設の無いのは、寧ろ不思議に思はざるを得ない。

○殊に、關東震火災の一大慘狀を目の前にし乍ら　我大阪市民が却つて都市計畫の應急的施設すら當局者に迫る聲の殆むど聞へないのは、一般に不可解に堪へない現象である。斯の點に就いては、市當局も左る事ながら、市民先覺者にも責任を歸さなければならぬ。

○序でに考へたい事は、是れも都市計畫の一事項ではあるが、本誌の二月號かに、宮本長治君が、防火地區設定に就いて論ぜられてゐたことは、わたくしも甚だ同感である。

○防火地區の存在は、他面に、その都市の甚だ弱い處、謂はゞ、缺陷のある處、而も、防火地區の帶域が狹いだけそれだけ缺陷や弱處を有つてゐる、といふ事を語るものである。

○されば、市全體が防火的なものであると同時に、市民各自も、自己の住むでゐる處を防火地區となるように考へなければ嘘である。

○然るに、その實狀は怎うであらうか。若し防火地區に指定された場合は、勿論木造建築物を容さないから、その實施前の空隙を偸用して、殷に木造建築をやる、といふように、自らの眉上に自ら火を附けるような愚を擧むで顧みない、情けない事ではあるまいか。

○之等は、一般的に犧牲を拂ふ考への一部にしなければ、一旦災事蒞むで、共倒れの愚に陷るの外はな

○再び云ふ、――一旦震火災の見舞つた節、その慘害は曩日の東京以上であらう。爆彈は市民の頭上に懸つてゐる。是れをしも尙ほ財産の安固を云ひ、生命の保全を唱へ得ようか。想ふても慄然たらざるを得ない。されば、市民諸君は此處に一大反省と異常の發奮を要するのである。

○それは、わたくしをして云はしむるならば、市民諸君が有てる財産の半分を抛つてでも、都市計畫を完全にしそして、一日も早く迅速に遂行されたいことである。謂はゞ、市民總掛りでやつて欲しい。豈にそれ、一部市當局者の閑仕事ならむやである。

○道路の擴張も急ぐべしだ。橋梁を不燃性に改築することも同時にやるべしである。曰く何、曰く何と速に市民擧つてやらねばならぬ程、保安の上に於て我都市計畫の實行は切迫してゐるのである。姑息と急偸安とは、少くとも大阪市民には差詰め禁物である。

○都市計畫の實行にも勿論順序がある。一夜普請の俄作りで無い譯ではないが、斯る急場に泣むでゐる現狀としては、先づ手近い處で、例へば、大阪停車場前より御堂筋に至る二十四間道路の如き幹線を、急速に築成することである。之等道路敷に就いても、市民は進むで出來得る限り買收を容易ならしむる樣に自ら讓歩すべきである。蓋し、斯る事に伴ふ損害の苦痛は左る事ながら、東京市や横濱市の覆滅の慘害を憶はゞ、市民の負擔し易い苦痛であり、見樣によりては、寧ろ消極的に利益することである。

○そうして、それら土地買收によりて立退く市民には、相當な報償を以てその立退き地を有利に買收し得るような方法を設くるのも、亦都市計畫の犧牲的報効者を偏重の負擔より脫れしむる所以となる。

○彼樣にして、市民が擧つて眞に市民一人々々の切迫な問題であり市自體の急務な事實であることを憶ふて、互ひに犧牲的精神の下に當局者を扶けて行つたならば、都市計畫の凡ゆる方面に於て一つとして難事にあらざるを斷言し得る。

○併し、斯る考へは、餘りに理想にのみ恃むでゐるようで、實際は、その犧牲的精神そのものを奈何に

いのである。市民は、防火地區制定の精神を充分理解して防火地區の指定なき地域には、自ら進むで防火的建築の外は建設しない位な誠實と意氣に在つて欲しいのである。

○勿論、一部分の防火地區だけでは足りないから、終りには、全市をそれにすることの豫想の下に漸次計畫を進めて行くべきではあらうが、出來得る限り甲種防火地區とするように市民自らの強い覺醒を促さなければならぬ。

○近來、大阪市の接續町村を市へ編入することに就いて、漸く實行の機が熟したようで、市當局者は市の中心より遠ざかり、新しく編入になる町村より整理に着手するらしいが、わたくしは、それよりも市の中心よりして先に着手しなければ、一朝大事の場合、非常な損害を招くことは明である。

○要するに、市民當局者と市民の先覺者は、都市計畫に對する市民の犧牲的精神を啓發すべく一種の教育的一大宣傳運動を起し、斯くて、大阪の都市計畫を一日も迅く、せめては應急的施設より完成せしめて、時を圖られない災害に處するの準備を有ちたいのである。（文責在記者）

袖　小　屋　に
青　き　煙　立　つ
木　の　芽　雨

# 震災後の桑港と帝都の新計畫に就いて

建築士　津田鑿

千九百〇六年桑港の震災は、吾人を驚嘆せしめた事は、未だ新なる記臆に殘つて居る、そうして復舊に僅か三年を要したと云はれて居るが、其れは、極めて主要部分であつて、全市が未だ全く完成整理されてあらぬ事は同市を訪ふ人の知る處である。

震災前の銀座通り、即ちマーケット街はどう改められたか、以前往復二線の電車は四線になつて居るそうして最終の點、即ち渡船所の廣場から昔はトランテープが手押であつたものが、線路を廻つて歸へる樣になつた爲め通行人の危險を慮り、雜踏を防ぐ方法としてフェーリーボート建物の二階から、緩勾配の高架橋で町の一方に乘降客を移して緩和されて居る、市の中心たるシチーホールの位置が少しく南西に寄つて定められた、と同時に前の廣場を擴げて、公會堂を、左に横手に圖書館を新に建築し、更に舊行列道路たるバンネス街を商業地に改められ、大小の建築は出來上つて居るが到底マーケット街の樣な賑やかさはない到る處、道路の擴張は可なり施されて、阪の切り落しも其の跡が窺はれ、舊支那街の一部に少しく變化がある。

災害を受けた大小の建築は多くは、以前の形に新構造法を以て修理せらる、と同時に下町即ち商業地域に於ては、木造は多く耐火構造と合せて耐震的に改められて居る。金門公園の諸建築は昔日とは變りなく、却つてヤング氏美術館は雲突く高塔が新建築の粹を示し、偉風堂々たるものである、庭園其のものは殆んど從前の通りで、只惜しいことは鐵筋混凝土構造の優秀を證明した、大効ある頂上の馬車廻しが再築せられぬのは物足らぬ感じがある。斯の如く、都市復興は理想と異なり、實行に當り故障百出折

角の計畫幾何をも決行出來ぬ事情があつた事ではなからうかと想像される、桑港の如き河のない、都市には、運河の必要もあらふ市中の公園の數も、不足の樣であると同時に市の中心が何處にあるか、多少疑問がある、そうして下町所謂商業街は耐火、耐震構造の建築は見らるゝも少しく（假りに中心あるとして）隔りたる處には木造家屋の數も割合に多く、萬一今回の如き程度の震災を再びする事あれば恐らく、火災の難を憂ゆる必要はなからうか、消防機關或は交通の設備は遺憾なくとも、多少危險なしとは斷言出來ぬ、只成功して居るのは市の中心に近い、高等住宅集合地のパンチスを取拂ふた位のものである、最も之れとも巴里に見る如きシャンゼリゼの大通りコンゴールトの廣場其他の都市にある並木通りはパンチスに代へて更に必要ではあるまいか。

震災後の桑港の現狀は以前の通りで、歐米都市計畫を參考とし、華盛頓の如き、理想的の主府を有する米國一都市の復舊の例を見て、如何に其の事業の困難なるかを想像するに餘りある。最も彼我比較にならぬ事ではあるが、君が帝都を如何に復興せしむるか、其の計畫の發表近くあるべきも左の條項を希望するものである。

**（一）、官有地の整理**　丸之內附近は元より各所に散在する、地面を整理し必要なる用途以外は民間に拂下げ有利に使用すること、官舍の如きは其の廳舍の構內に限られ極めて實用に縮むること。

**（二）、安全地帶**　壕端及び河川に沿ふ處に建築を許さず其の空地に物揚げ場を或る區域に制限し、なるべく廣く長き場所を公園とし、樹木を植へニューヨークのリバーサイドの例に倣ひ、一つは都市の美觀とし、併せて避難所とすること。

**（三）、住宅地の整理**　中心點より幾里かの圓を畫きたる範圍の地は、個人所有の敷地に制限を附すること、若し二個所以上の敷地を所有するものは、納稅又は相當の義務を負ひ、擴大なる敷地は適當の用途に供すること。

**(四)、建物の階數**　を高め所に依り二階以上又は三階、最高は條例にて制限し同時に、敷地を節約し隨つて附帶設備の節約を計ること。

**(五)、共同住宅**　理想的の住心地よき共同住宅を或る方法を以て經營し、保健と住宅難の一部を緩和すること。

**(六)、電車と人道**　電車の通行する處は必ず人道を要すること、然らざる處は單線に改めること。

**(七)、交通整理**　大建築と停車場或は電車停留場の如きは地下道を以て連絡すること、且つ銀座須田町日比谷の如き交叉點は地下道を以て安全に向側に到する設備をすること。

**(八)、境界線**　市の內外は其の境界を判然せしめ、市の膨脹を防ぐこと、當然市の利益と郊外の其れとは區別さるべく、隨つて納稅義務併せて負擔の輕重何れも公平なる恩澤に浴する樣にしたい、例令へば物價安きが故に不便である、便利なるが故に家賃高きが如く、又電車の如きも市內の人より終點たる市外の人に殆んど專有される狀態は考へものである。

**(九)交通機關の整理**　電車の運轉系統を研究し、外壕線の如きは一周に復舊し併せて高速及び補助機關の必要なる事即ち高架或は地下又は乘合自動車の如きもの、市營と民營を問はず一つに遍せざることに且つロンドンの例に倣ひインナーサータル線を必要とすること。

**(十)、電力瓦斯水道**　補給の用意を必要とし、市營と民營を問はず非常に際し速に有效たらしむること

**(十一)、建築物**　は其の用途と位置に應じ民力の及ぶ限りの構造、其の他に資財を投じ得る範圍に制限を加へ徒に理想に走るは避くべきこと。

**(十二)、帝都の美觀**　復興する新帝都は世界的首府として凡ての點に一致し、小なれども愧しからず、大なれば誇り得べき完全に近きものゝ實現を期すること。

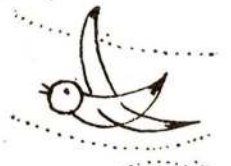
道路の擴張公同の新設官廳の建築墓地の整理、上下水、運河、橋梁、電力、瓦斯、交通機關、番地の

整理其他復興院の施設に待つこと。

要するに、都市計畫は困難なる事業である、今日となつては高速交通機關の必要に迫られ、同時にビンネスタウンの狹少と共に東京驛の位置、既に考慮の足らざる恨みがある如く、大建築の位置は此際餘程の研究を要するべく、建築中の議院は最早是非なしとすれば、之れに伴ふ諸官廳及び市の中心決定之れに集り來る道路の關係、其他輕卒に斷行すべき問題に非ず、宜しく實行案を得るには國民全體最善の努力と合せて衆智を集むるに如かず、依つて復興院の方針に隨ひ其の一部を一般懸賞競技に附するは最も策を得たるものなるべしと信ず。

今日は又知らぬ野原に行きくれぬ

何れの山か月はいづらむ



# 學說

# 「コンクリートブロック」より鐵筋「コンクリートプロック」まで（二）

## ―附　中村式鐵筋「コンクリート」に就いて―

中村鎭

一　序　論
二　中空構造論（複　造論）
三　構造法の發達と其種類（綜合的構造法への道）
四　鐵筋「コンクリート」建築構造の得失
五　中空構造としての「コンクリートブロック」及び「ホローターイル」の發達
六　鐵筋「コンクリートブロック」（綜合的建　築法）の出現
七　中村式「鐵筋コンクリートブロック」に就いて

鐵筋「コンクリート、ブロック」に就て、私は數年來研究し又實驗した多少の意見を有つて居るので何等かの方法に於て、纏めて發表したいと思つて居た。嘗て雜誌「建築評論」や「建築世界」に其の一部を發表しかけたのであるが、途中から病氣になつて止めてしまつた。今此處に、十分とは行かないけれ共、研究の概要を發表して見たいと思ふ。

## 五、中空構造としての「コンクリートブロック」及び「ホローターイル」の發達……（續）

如何に急速に「コンクリートブロック」が發達したかと云ふ事は今日世界各國を通じて其考案が數百種に上ると云ふ事に依つて明らかであらう。其數百種の「コンクリートブロック」を一々詳說する事は出來ないし、又其必要もないと思ふから、此處には其發達の順位と、形態及用途上の類別に從つて、其重要なるものを十種ばかり紹介して其の性質及得失を論ずる事としやう。

### B「コンクリートブロック」用途上の分類

「コンクリートブロック」を用途上から分類すると次の四つとなる。

（一）中空のまゝ積立つる「コンクリートブロック」（石、煉瓦の代用として用ひらるゝ前記の理由に基くもの）

（二）普通「コンクリート」造の假枠代用としての「ブロック」

（三）鐵筋「コンクリート」假枠代用としての中空（ブロック）にして後に其中空は鐵筋を挿入し「コンクリート」を充塡して中空を失はせらるゝもの。

（四）一、及二、の混用せられたるもの、即ち其の中空の一部は鐵筋「コンクリート」の骨格を造るために充塡せらるゝも其大部分は中空のまゝ殘さるゝもの

（一）は最も廣く「コンクリートブロック」として發達しつゝあるもの即ち所謂「コンクリートブロック」の正系である。本章に於ては是に就て少しく詳說するつもりである。

（二）これは先づ「ブロック」を積んで中空を作り、其中に「コンクリート」を打込んで是を一體となす構造法で、昔日の「ローマ」に於て行はれた煉瓦を積んで中空を作り是に「コンクリート」を打込んで一體としたものと同巧異曲である。（是は後に說く組合せ「ブロック」に依つて成される場合が多い。）

（三）は前章に於て述べた、鐵筋「コンクリート」建築構造法の多くの缺點中、其假枠を用ひて鑄造す

る事が、不便、且つ不經濟なるを思ひ、此一點のみを改良せんとして、先づ中空「コンクリート」を用ひて、積疊式構造をなし、それに依つて生ずる中空には鐵筋を配置し、「コンクリート」を打込みて、出來上りたる結果は一重壁となる樣にしたる一種の綜合的構造法である。斯くすれば「コンクリート」量は少しも減ぜられる事が出來ない上、假枠を用ひたとの經費の差はあまり大きくはない

是は「コンクリートブロック」の應用中最も幼稚な拙劣な效果の少いものであるから多く論ずるを要しない。即ち前章に擧げた、鐵筋「コンクリート」の缺點は、殆ど一つも救はれて居ないばかりか一方に擧げた「コンクリートブロック」に依る複雜構造の利益も悉く失ひ去られて居る。其上鐵筋の配置は十分滿足に理論的に爲し得ないとしたならば何を苦しんで「コンクリートブロック」を應用するのか解からない事となり了る。私は斯る良法がよし私の前章に於て主張した綜合的構造法の一種であるとは云へ、今日の時代に於て決して永い生命あるものとは思へない。

(四)は「コンクリートブロック」より鐵筋「コンクリートブロック」への進化の最も大切な道である是に就ては次章に於て詳しく論ずる事とする。

C「**コンクリートブロック**」**の形態上の分類**

今日「コンクリートブロック」の考案が數百種を以て數へる程ある事は前にも述べたが、是を大きく二種に分つ事が出來る。

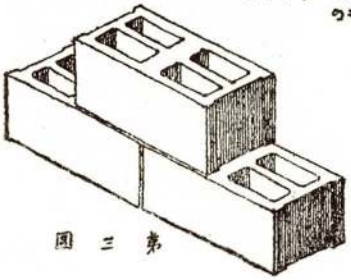
(一)箱形「ブロック」(一ブロック內に、一個所又は數個所の中空を有するブロック)

(二)組合せ「ブロック」(一ブロック內に、中空を有せず組合せ積立てたる結果中空を有する樣になる「ブロック」)

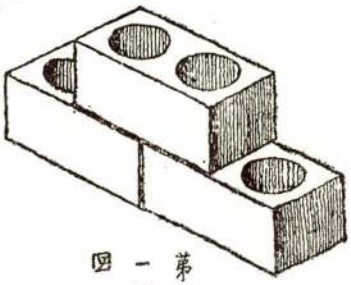
此の二種の中最初に發達したのは箱形「ブロック」であり次に可成りの經驗を積んだ上現れて來たのが、組合せ「ブロック」である。

箱形「ブロック」は後に說く通り素人にでも考案し得られる常識的のものではあるが而し其の行手の道はふさがつてゐる。是に反して組合せ「ブロック」は餘程の廣い且つ深い、建築的智識と經驗とを具へて居なければ決して優良なものは發明し

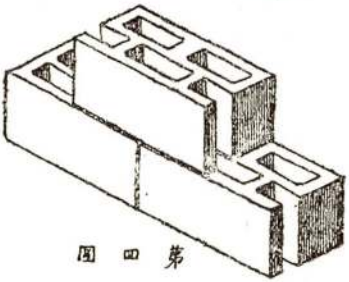
箱形ブロックの例(一)
幻燈用のもの



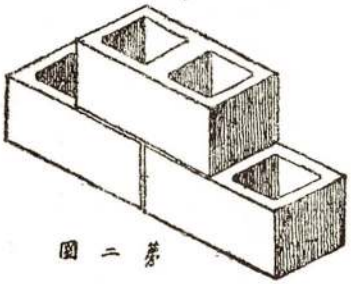
第三圖



第一圖



第四圖



第二圖

難い、それ丈其前途は開けて居る。此後「コンクリートブロック」が鐵筋「コンクリートブロックツ」に進化するのは、ほとんど此の組合せ「ブロック」に屬するものであると言つて差支ない。今順を逐うて其部分説明に入りたいと思ふ。

D **箱形「コンクリートブロック」**

（一ブロック内に一個又は數個の中空を有するブロック」）

箱形「コンクリートブロック」とは頗る不適當な名稱である。如何となれば夫は決して箱の樣に底も蓋もない。唯上下に或は横に穴が貫通してゐるといふに止まるからである。然し適當な名稱を思ひ付ける迄しばらく箱形と稱して置く事としよう其意味は多くの圖に示すが如く一個或は數個の穴が一塊の「ブロック」の中に、貫通してゐるものを言ふのである、「コンクリートブロック」が中空になつた最初のものは、實に是の最も簡單なものである。

第一圖及第二圖に示すものが即ち其最も簡單なもので前述の通り同じく型の中で鑄造するものな

らば、型を少し精巧にして中空を造つたならばと思つて試みたものである。此形態のものは既に二十年近くも前から我國にも來て居て、淺野セメント會社に依つて製作され多くは諸所の塀に、時に、小家屋等に用ひられて居るのを見る。

第三圖に示すのは之の少し進歩したもので內が田の字形の平面をなして四つの穴を持つてゐる。是は保温や防濕の效を大ならしめ樣として企てられたものである。更に其の側面には少しの凹みがあつて「モルタル」の附着を十分ならしめ樣と計つてある。是は、外壁に當つた雨水が竪目地の不十分なる點を通つて內部に滲み出る事が多い。夫程竪目地は「モルタル」の附着が不十分になり勝ちである、といふ苦い經驗から敎はつたよい考案である。

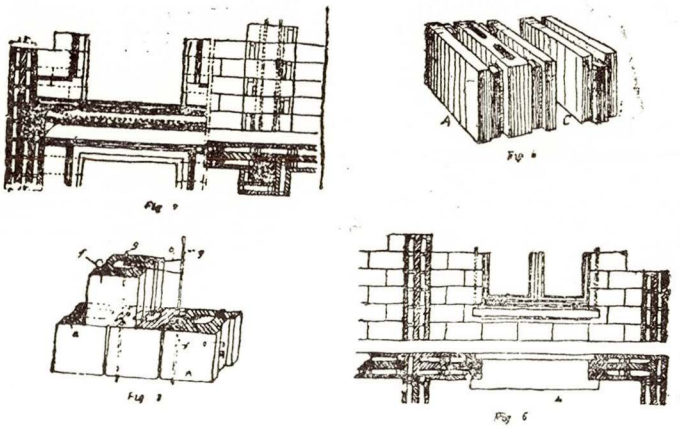
第四圖のものになると最早幼稚な「ブロック」の域を脫して中級の「ブロック」に入つて居ると云つてよい。濕氣の傳達に對して深い注意をした結果其仕切を交互に穴の中心の處に持つて來てある。斯うすると濕氣の傳達される道程は非常に遠くなつて、よい結果を與へる。唯その製作と運搬とは多少困難である。

箱形の「ブロック」で第四圖類似のものは頗る多い。其或物は中空が三重になつて居るものすらある。が夫等は何れも一得一失であつて、私が先に述べた理想的中空構造論の總ての條件に向つて非常に近いものとては先づ無いと云つてよい。それで第五圖として三重中空のもの丶一例を擧げるに止めて置く事とする、其不完全である理由を指摘すると、(一)中空の數を多くすればする程材料減少率は減じて、僅二三十「パーセント」位しか減じない事となる。(二)製作は益々困難となつて行く(三)隅角、窓入口側及楣等の場合異形を少くとも三四種製造するを要すると共に、(四)胴差等の場合竪の穴を覆ふに困難を感ずる事。(五)配管配線は「ブロック」の一部を破壞するに非れば困難なる事(六)補強の全く困難なる事、等である。

E、**組合せブロック**

(一つの「ブロック」內に中空を有せず組合せ積立てたる結果中空を有する樣になる「ブロック」)

第五圖　三重中空の箱形ブロック



組合せ「コンクリートブロック」とは、前に概説したように、其一個は中空のない片であつて、夫を巧みに組合せる事に依て中空を生ずる樣工夫せられた處のものである。これの考案は中々うまく行かないのであるが、その代りよく考案せられたものに到つては、保温と云ひ、防濕と云ひ、又材料輕減と云ひ、實に理想的に出來て居るものがある。

是等の一片は、I. T. Z. L. H. F. E. N等の形をなし其形に依つてT形又はH形の命名がされて居る。

第六圖に揭げるものは、雜誌「エンヂニアリング、ニユース」の懸賞に當選したT形「ブロック」である。絶對に防濕の效果を擧げるため圖示の通り中空を連續せしめる樣に考案してある。第七圖は是と類似のT形のものに要する異形、及び各部の施工を圖示したものである。第八圖はT形とi形との組合せに依つて出來たものである。又第九圖はU形の一例である。

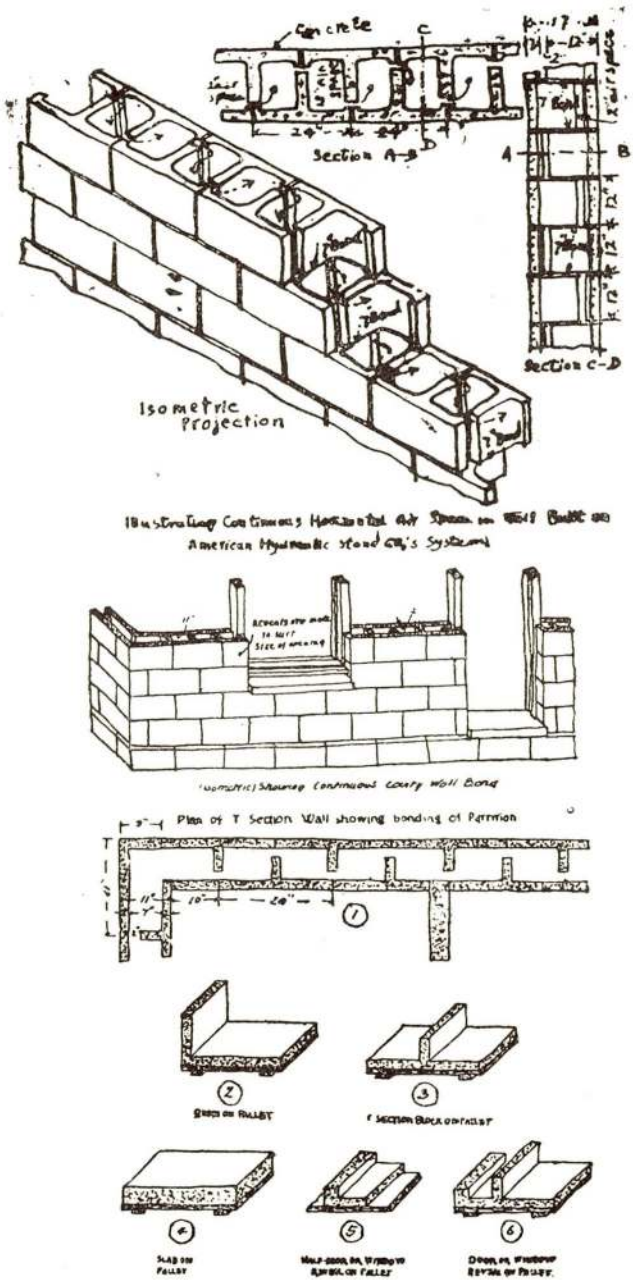
是等の組合せ「ブロック」の特長を概說すると、(一)防濕の完全(二)材料輕減率の增加(三)製作運搬の簡易(四)施工の簡易(五)配管配線の自由等である。

中空「コンクリートブロック」の二種、卽ち箱形及組合せの兩方法に就ては、尙說くべき多少の事があるが其詳細は他の機會に讓つて、前に述べた「ブロック」を「コンクリート」の假枠代用としやう

と試みた、即ち第二類、第三類のものに就て、其一二の例を擧げて簡單な説明をして置かう。是等第二類及第三類に屬するものは、ほとんど悉く組合せ「ブロック」の應用である。

## F 第二類「ブロック」構造の例

第十圖に示すものは、厚い板用の「ブロック」で




第六圖　T形組合せブロック　防濕完全なり

第七圖　T形組合せブロック　下方圖示の如き五個のヤクモノを要す

第八圖　T形とI形の組合せブロック

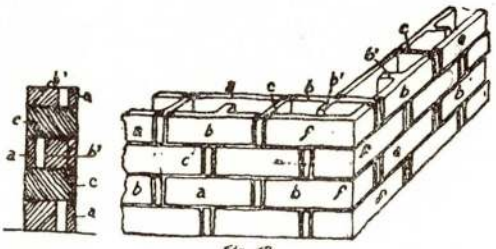
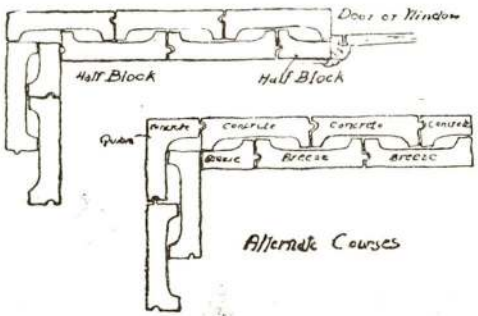
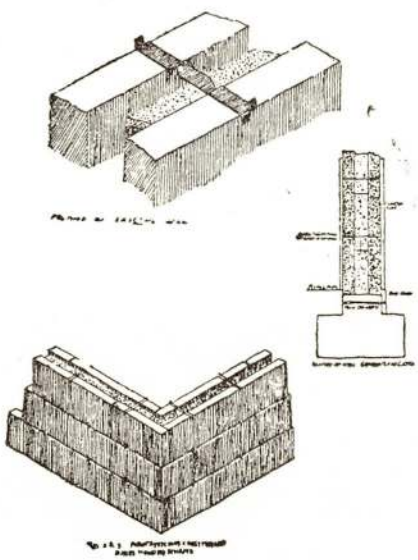


Fig 48

第九圖　淺きU形組合せブロック




第十圖　コンクリート假枠を兼ねるブロック

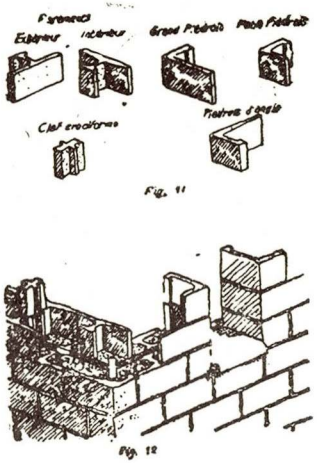


是を二重に積立てゝ其内外兩面は金物を以て連結させて倒壞を防いでゐる。或程度積上つた上で「コンクリート」を打込んで之を一體としたものである。第十一圖も同樣に工字形及びL形等のものを組合せて巧妙なる中空を造り、中に一條の溝を殘して他に「コンクリート」を以て充塡したもので餘程苦心した考案である。而し是等の構造は先にも述べた通り綜合的構造法であるとは云へ、其結果は殆んど「コンクリート」造の假枠代用といふ以上に大した效果を認め難いのである。

### G 第三類の構造の實例

第十二圖は第三類の構造の中では優れた一例で

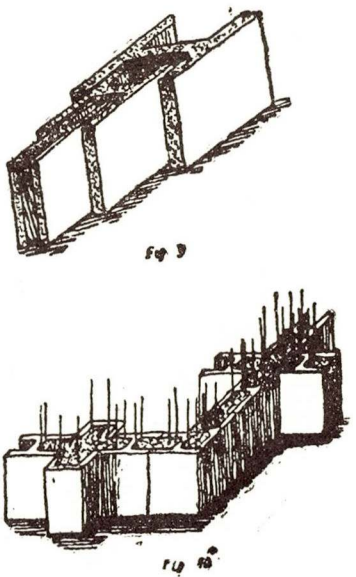
第十一圖　工字形とL形との組合せブロック



ある。圖の通りH形に「ブロック」を造り、其間に鐵筋を配して「コンクリート」を打込んだものである。此の優つて居る主要な點は鐵筋を完全に先に立て得ると共に夫等の積まれた「ブロック」を鐵筋の爲に、跳ね落される事のない樣に、爲し得る事である。

然し斯うして折角作つた、中空を埋めてしまう位ならば、こんな廻り遠い事をして不完全な配筋を爲すよりは、寧ろ假枠を用ふる普通鐵筋「コンクリート」の完全を選んだ方が遙に、賢明である事は誰しも氣付かれる處である。

第十二圖　H形鐵筋コンクリート假枠代用



若艸に

毬のそれたる

ゆき處



# 建築藝術に於ける歴史の問題 (二)

山崎萬壽夫

順序として、斯の項は建築家の「人」に論及する筈であつたが拙稿本誌第六輯三、四、五號「美的價値財としての建築」に於て述べたことがあるから、重複を避けて直ちに個人對社會の問題に移る因に、本稿は前記舊拙稿の補遺として讀むで頂きたい。

最も簡單に『社會生活とは……』の問に答へうるには、吾人は『社會生活とは外部的に規定せられたる人類の共同生活である』と云つたシュタムラーの定義を適當とする。而して此の人類社會の概念に於いて、吾人は二個の決定要素の必然的結合を見出すことが出來る。即ち人類の協働の外部

的規定と、外部的に規定された人類の協働の二つである。前者は其の形式、後者は其の實質と考へられる。もとより此社會生活の概念の形式的要素をなす人類の協働の外部的規定とは、一、法律上の規定、二、慣習風俗禮儀作法等の約束的規則と稱せらるべき社會的規則であり、外部的に規定されたる人類の協働とは、つまり欲望充足のために する人類の協働であつて、社會經濟と稱すべきものである。

要するに、人類の社會生活の形式をなすものは法律であり、其の實質をなすものは經濟であるが斯かる區別は只抽象的に可能なばかりで、實際に於ては形式と實質とは常に不可分的に結合して現はれてゐる。外部的に規定されたる經濟が言はむとする處の經驗内の社會生活である。

換言すれば、社會は其の實體としては、結合せる個人の全部であり、その個人の結合に依つて形成された系統（システム）が、社會生活を生ずる基本となるのである。其の系統は明瞭に、各個人の其の住居する地位如何、其の交通聯絡の度數及び性質等に依つて變化するものである。多くの個人的表現は『其の相互作用及び結合によつて社會的表現を生じ從つて多くの社會的表現は其の相互作用及び結合によつて、より高くより純粹なる社會の社會的表現を生ずる——社會心——と考へられる』（GEHLKE）故に社會心の表現は、個人的表現よりより優秀であり個人的意識に對して外面性を有してゐるのが當然である。

吾人が直面しつゝある社會事實は、其の思考、行動、感受の諸方面に於て個人の外に存し、それが所有する優秀性は此處に强制力となつて個人を壓し、個人はそれを意識的に或は無意識的に社會の羈絆として受けなければならないのである

併し、凡ての人々が全然その個人性を發揮することなく、その社會に無意識的に服從してゐたならば、何等の問題も起りえないのであるが、或る個人がその服從を意識的にするか、或はその社會と相容れないやうな個人意識を有してゐるときには、明かに社會の强制力を意識する。そして自己の人格的價値を發揮することに人生の意義を發見

し、理想的社會組織の實現に努力するとき、個人の自覺と社會の强制力の變遷が起るのである。是れ卽ち人類文化の發展である。

暫く吾人は現代社會とその强制力の觀察を企てる。依然として現代は、所謂資本主義的生產組織の上に社會建築が聳え立つてゐる。私有財產制度契約の自由、營業の自由といふ美名に隱れて、假面の自由競爭が認められてゐる時である。物を尊重し貨幣を尊ぶ資本主義的精神が、其の當然の結果として人を輕んじ人格を認めず、只其人の所有する貨幣の多少によつて其人を評價し貨幣を所有せざるものには殆ど人としての待遇をしないのは言ふ迄もない事實である。

まして、生存權の認められやう譯はない。故に自己の生命維持さへ保證されず、而も一日孜々として勞働し尙ほ其生活を保證されないものがざれ丈けあるだらう。然るに、他方資產を有するものに於ては、例へ彼が遊樂に餘念なくとも其の生活は安全なのである。

茲に至つて省れば、現代社會の缺陷が最も多くの人が常に不安を感じてゐる『生活が保證されてゐない』といふことに起因するのである。所謂道德の腐敗も斯の點から生じたと考へられる。

吾人は財を有しない限り其の生活が保證されないのであるから、いきほひ如何なる手段を講じても——例へそれが詐欺、僞瞞等の倫理上許すべからざる手段であつても、それが法律に觸れない限り行ふことを躊躇しないのである。勿論他人の生活問題等はその手段の前には何の價もないことは言ふまでもない。

從つて、現代社會の强制力は其の個人の判斷の如何に拘はらず其の力を恣にしてゐるのである。自己の人格的價值を發揮することに人生の眞意義を認め、立脚點を自己にとつて社會全般の諸象を批判し、その缺點を指摘し社會改造を說く眞の先覺者も、更に多くの覺醒者を待つ迄は犧牲者である。もとより、斯る事實が歷史を通じて各の過渡期に於ける當然の狀態とは云へ、吾人はそれを何時迄も甘受し服從しては居られないのである。吾人は現在に於て文化價值を確立し歷史に參與せむ

がために、その前提として生命の持續に對する不斷の脅威を除くべく、凡ての人類の生命維を持保證する生存權の確立を希望するのである。即ち吾人は、其の社會生活が人間らしくあるために正しい勞働に基く生存權の確認と物質欲からの解放とを必要とする。現存する社會にあつて、吾人が常に耳にするところのものは斯る要求より起る社會改造の叫びである。

言ふ迄もなく社會は發達し變遷するといへどもそれは必然的に定命的にのみ變化するのでなく、吾人の努力と犧牲とを必要とするのである。物質的生産組織のみに限らず、精神的人格價値の方面に於てもその努力は必要である。勿論、精神的改造も物質的改造も相共に同時に行はれなければならない。因果律的考察の進歩は目的論的考察に依つて、辿られゆく文化の行程に出來得る限り添ふやうに導かれる必要がある。かくてこそ、前述の如き理想が各人の人格的内容の如何によつて、或は藝術に或は宗教に或は科學に或は哲學に其他凡ゆる文化的所産となつて表現されうるのである。

茲に於て歴史はまた社會改造の過程であるとも云へる。

以上既に述べた處によつても明かであるやうに或る個人の行動が全社會に影響を與へると同時に如何なる個人も社會の影響の外に存在するものではないのである。個人の意思、行動は少くとも人爲的に充分自由でなければならないけれども、眞に孤立の人もあり得ないし、眞に孤立の學説も藝術もないのである。眞の獨創とは孤立の意味でない。新らしい創造は古いものに其の根據を有して居る。何かの獨創は新らしく文化に何者かを寄與するか或は何かの點で文化を促進させるべきものである。此の點からみて、吾人は新しい創造がその根據を有つてゐる古いものゝ正當な價値に一瞥さへ與へずして而も創作を謳歌し文化の言葉に盲動する人々の覺醒を望むのである。特にその人達が社會各團體の中堅者たるべき位置にある時に於ては最も好都合である。社會改造の運動が一方にその社會組織を個人の價値完成に寄與せしめんとし、他方個人の自覺を促進するやうな形成を目的

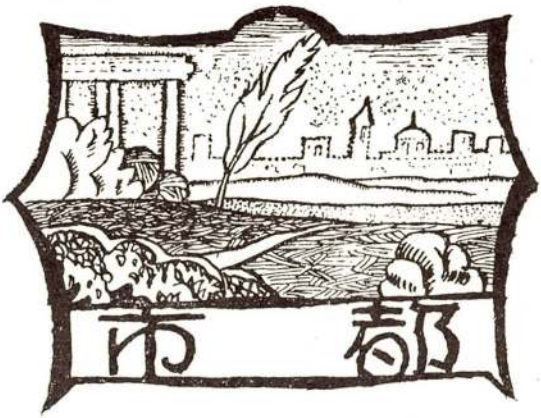
とするのであるから、吾人はその點から云つてその人達が最も適當な位置にあり又最も便宜を有すると考へるからである。第四階級にある個人の自覺が、著しい現代社會改造のアンダーカーレントとして漲つてゐることは明らかである。併し、吾人はまだ現代社會に多くの正しい犧牲者を送らなければならないし、また飛躍を指導すべき天才を待たなければならないのである。

社會の大勢は今やマルクス主義の破綻を見て理想主義へ向ひつゝある。しかし理想の力觀念の力を重んずるこの社會主義的傾向も其の手段によつて二つに分類することが出來る。一は革命的サンヂカリズムであり、一は修正派社會主義或は進化的社會主義と云ふ名の下に包括される。

藝術に於て先づ最初の痙攣的爆發と考へられた獨逸表現主義の思想は、明らかに藝術上の社會主義運動である。彼等主義者は客觀的世界觀の支配から自我を救出し、何等かの意義に於て主觀の權威を表出しやうとするのである。

『事實の意義は藝術家の手が其の背後にあるものを摑むときに始めて生れる』『人は最早や義務や道德や社會や家族に結合せられた個體ではない。新藝術に於ては彼は單に人間となるのである』『ただ純一にして素撲な人間、眞の人間、宇宙の間へ突入し、宇宙的感覺を有する人間のみがある』と彼等は主張してゐる。嘗て、自然主義が物質一元の思想によつて世界を一つの統一體と見やうとし、物質を支配する法則を以て人生を解かうとしたに反抗して、人間と萬物とを貫く精神又は生命の力を以て總ての根源とし、全體を統一的に把握しやうと彼等は企てゝゐるのである。即ち、個體的、差別的な自我を離れて形而上學的な普遍な自我——人類靈魂を讃美し淨火によつて近付かうとして唯一の賴るべき自己——赤裸々なる自己の上に如何なる偏見も權威をも持たずして新たなる藝術を產み出さうとするところに、彼等の社會主義的思想が認められるのである。（未完）

× × ×




# 近代都市への蔑視

春日野須摩維

都市とは、勿論、眞の意味に於いて、單にわけのわからない民衆の騒がしい集合所の謂である筈がない。單に重い自覺もなく優れた教養もあらぬ民衆の雷同的な集合から成り立つた下らない一組織が、直ぐそのまゝ、眞の意味に於ける私達の都市と呼ばるべきものではあらぬ。無智と無恥と厚顔との厭ふべき混淆が決して、都市の謂ではない。或は、都市は單なる生産の工場のみでもなく、消耗の市場のみでもある筈がない。都市が誤つて、單に私達が頻繁なる紛爭と過勞と錯亂の渦中へのみ追ひ込むなら、かゝる都市は、論ずるまでもなく、私達に依つて眞の都市と呼ばるゝ値ひのないものであらう。單に都市はその多岐なる燈光と色彩と音響との所謂都市文化の故に、私達の弱い肉を苛々しく昂奮させ魅惑し去つて、同時に、無下に私達のデリケエトな情を酷い失意と自墮落との荒野へ激しく突きはなすことしかなし得ないのであらうか。私達の都市への期待も大きい。都市の眞の効用は、一言で言つて、都市人の人格と文化との輝やかしい生長と開發とを助成するにある筈である。而も、亂れ狂つた近代都市の慘虐なる暴力、或は壓迫は、約言すれば、それに充分堪え得るものには馴致するに不德と汚濁と罪とを以つてし、それに脆くも得堪えないものには考へるに病苦と狂亂と死とを以つてするらしく見える。從つて、かゝる近代都市

への爭ふことの能きない暗らい蔑視の思想と感情とが、所謂表面華やかなる近代都市文化の裏面と陰とに根強く浸潤し初めたのも、決して、單なる偶然のみではないであらう。

近代都市は廣く常識的に主張されるやうに、疑ひもなく、近代文化の發祥地なる名譽と慾に龍斷した。近代文化は、一言で言つて、近代都市の文化であり、或は近代工業の文化であると言ひ得るであらう。細言すれば、そは集產主義の產業的中央集權組織の文化であり、或は單に分業の文化であるとも言ひ得るであらう。近代文化は近代都市に於いて、言ふまでもなく、恣にその派手やかな生長を遂げた。都市はその巨大なる觸手を伸ばして全らゆるものに飽滿し、全らゆるものを消化しつくした。加ふるに、近代工業の驚くべき發達生長は益々厭くことなく都市の發達生長を促進擴張し、全らゆる機械化されたるきらびやかなる文化を都市の眞中へと嵩高く積み重ねた。都市は此の時豐富な市場であり、宏大な工場であつた。都市は一切のよきものや美はしきものゝ選ばれたる當然なる集積場と誤認され初めた。人々は全らゆるものを都市へ輸送し都市に集積することに汗し、又都市から運搬し都市から獲得することに勞し初めた。都市のみが文化の母胎であり、美の故郷であるといふ偶像禮拜が行はれ初めた。遂に、都市とは直ぐそのまゝ光りの都市であり、輝きの都市であるとの信仰までが傳道され初めた。都市のこの避け難く甘い魅力に、人々が惑倒され誘ひ初めたのも、むしろ當然過ぎることなのである。多分、近代都市を離れて近代文化を語ることは、太陽を離れて光を言ふ沒常識と同じく、近代文化人の皮肉な揶揄に一蹴され果てゝしまふであろう全るで洪水の如うな都市の大移住は、も早や素早やく初められた。人々は都市に於いて、全らゆる生活上の愉樂と滿足とを探り得るものと錯覺した人々は都市の混淆した光彩の雰圍氣に醉ひしれて些の條件もなく無下に田園を棄てゝ都市へと大急ぎで集中し初めた。近代人の高くかゝげた標語は唯『都市へ』の一語のみであつた。この都市に於いて美と道德とを、自由と安寧とを、彼等は容易

く得やうと求めた。疑ひもなく、人々は自由から都市へ出て凡調の世界から新しい驚異の天地へと躍んだ。光は一杯に溢れた。土塊の代りに大理石を、痩せた野菜の代りに肥えた獣肉を、鋤の代りにデイゼル機關を、彼等は得た。彼等は即座に高い歓聲をあげた。都市に於いてこそその高い理想の一切を表現し得た彼等は盲信し誇示した。遂には、文化の名に依つて、何等の疑義なく資本主義組織を是認讃禮さへしたのである。かうして、近代都市への無批判無反省なる心酔は、遂に、彼等をして田園を公然と蔑視し、大工場組織的なる大量生産の効果に愚かにも眩惑されて、如何に都市に吸誘され大工場に縛られた過多な勞働者達が如何なるあはれむべき悲慘薄幸なる事情の下に、如何なる無情酷烈なる人間らしくなき生活を強ゐられつゝあるかの生々しい事實の委細を了承し乍ら農業の哀しく怖るべき衰微を等閑にし、大工場に依らざる工業を貶すことに平氣ならしめ、むしろ誇示せしむるにまで至つたのである。人々は、都市文化の名にのみ依れば、都市の一切の歪みも亂れて即座に是認し同意することに躊はない。都市の悪はその派手やかな表衣に依つて美を解譯され都市の厭ふべき錯亂もその巧みな表現に依つて素晴らしい都市の生長活動を思惟された。而も、眞の高い文化とは、決して、都市に花咲いた悪の謂である筈はあらぬ。恵まれたる農民が呪はれたる機械の奴隷と墮落し果てる生活が、眞に將來さるべき文化生活である筈がない。人々は樂土を求めてすでに樂土外を的もなく彷徨し初めた。人々は悪を本然の道徳とし、醜を當來の文化と呼び初めた　全らゆる人々は、例外なく、避け得ざる病苦と失意とに哀しく苛々し初めた。多くの人々は都市の騒音の中に顧みられずして死に、冷たく磨かれた石の街上に棄てられて行倒れ初めた。かうして、秩序と美とは都市から消え去らうとし初めた自由と愉樂とは都市から逃れ去らうとし初めた。快活と平和とは都市人から失はれ初めた。蒼く暗らく汚なく騒がしく、都市は亂れ爛れ初めた。明るい陽は今落ちやうとする。多分、近代都市には早くもその蒼い黄昏が近づいたのである。

近代都市の厭くまで執拗な魅力は、而も尚、人々を都市を棄てさせることに死ぬ程の痛い躊躇をさせる。彼等はかくまで痛く裏切られつゝも、尚も、魂の永劫の故郷を近代都市にのみ求めやうと企圖するのであらうか。彼等は都市の汚れと華やかさとの中に、恣に愚かしくも籠絡されつくした救ひ難い都市病は、すでに、その不治期に入つてゐるらしく見える。多分、このまゝでは都市人はその都市と倶に哀しく自滅し果てる外に迷ふべき道はないであらう。過ぎゆくものはそのまゝに過ぎゆかしめよ。自由と光榮との新しい都市は、今舊い都市の自滅の跡に靜かに　必ず、芽生え初めるであらう。今こゝに言ふ新しい都市の誕生とは惠まれたる中世自由都市の第二の誕生の謂である

近代に於いて確然と相對峙し去つた農業と工業とが、不自然も矛盾もなくて立派に相結合し提携し合つてゐた時代があるとすれば、多分、その時代はかの中世自由都市の繁榮の時代であつたであらう。中世自由都市は、當時專横を極めた所謂封建諸侯の專制壓迫から遁れやうとした武裝的の小規模な共產村落から、その自由な出發を初めた。自由都市は何よりも先づ平等人の都市であつた。都市人は如何なる資格よりも先づ文字通りの自由人であつた。彼等は自由のためにのみ武裝し、血と汗とを流した。自由を得るためにのみ、彼等は自發的に進んで確く結合した。彼等は皆互に一切の舊く卑しい確執を棄てる誓ひをたてた。彼等は何よりも先づ自由と建設との新しく輝やかしい生活へ向つて、勇敢に堂々と突き進んだ。彼等は彼等自ら熱愛し創成した自由都市を、單に都市なる概念の中に容易に包括することなく、全らゆる優れた人道上の正しい觀念の下に、その健やかなる生長と充實とに怖ろしく努力し初めた。彼等は決して、相爭ひ合ふことのために彼等の新しい都市を建てず、相支持し合ふためにのみ彼れ等の樂土なる都市を建てた。彼等は互に煩はしく相拘束し合ふことを厭うた。そこには農村に對する都市のテロリズムもなく、農民の都市人に對する不服憎意もなかつた。都市が暴慢にも農村を蔑視し、支配し、搾取し、掠奪することもなかつた。都市は

農村と相敵し合ふことなく、都市人は農民と他意なく談笑し合つた。そこには工業も農業も相對峙さるべき別種の事業でなく、この一見調帶妥協され得べきもない二つの勞働が、互に不自然なく和合されてゐた。都市は、言はゞ、一つの大きい工業的村落であつた。農民は全らゆる荒野を根氣よく開拓し征服して廣大なる農場を有つた。手工勞働は、決して、誤解されたやうに卑下さるべき職業ではなく、他の名譽ある公職と同じく名譽ある高貴な公職であつた。彼等は農民たる名譽に住んで都市人に對して自卑することなく、手工勞働者たるの公職に安んじて農民に對して自卑する要もなかつた。彼等は彼等個々の自由に眞に本質的な自信と矜持とを有つてゐた彼等は對他の卑しい末消的感情の一切を拒み、ひたすら眞劍に謙虚な心の世界を建設して行かうとした。彼等には彼等に選ばれ與へられたる仕事は全社會に對する敬虔高貴な一義務と思惟されてゐたのである。責任は常に自由の姉妹であるが、彼等は彼等自らの一切の行爲に重大なる責任を賭けた。從つて、彼等は何者とも知られない買手に賣るために、或は何處とも知られない市場に送るために、大急ぎで責任なくその生産物を作らない。彼等の都市の最初の繁榮時代には近世を呪ふべき賃銀勞働や責任なき大量生産の粗雜な商品はなかつた。當時に於ける全らゆる勞働は、疑ひもなく直ぐそのまゝ文字通りに愉快な創造的行爲であつた。彼等は彼等の自由と幸福とに醉うた。彼等の文化はその素晴らしい發達生長を遂げた。かうして、遂には、彼等は自由人の組織する自由結合の精神を誇りやかに表示する、そして、爾來曾てその匹敵を見ないまで評價さるゝ壯重華麗な多くの優れた建築物をもつて、その樂土の一切を掩ひ飾つたのである。

新しい都市の誕生とは、勿論、今日の都市そのまゝの發展延長ではないやうに、又中世自由都市そのまゝの現代への常識はづれの再生の謂ではない。時代は中世へ逆行する要はあらぬ。眞の文化開發はその複雜なる開發の故に拒非さるべき理由を有たぬ。文化は自由に躍動する。今日の眞の優れたる文化は明日を創見しつゝ進む。來るべき私

達の新しい都市とは、約言すれば、一つの高い共通目的の故に互に確く團結し提携したる眞の自由の社會の謂なのである。それは、言ふまでもなく、今日の所謂文化都市でもなく又中世の自由都市の謂でもなく、近代の優れたる多くの思想家達の常に憧れ夢想し、今日尚一般民衆の低い常識圏内では單なる笑ふべき空想と斷定され勝ちな理想的なる組織と全らゆる點に於いて一致された、より優れたる政治を有ち、より優れたる制度を有つた或る高い理想的なる社會であらう。新しい都市は、決して、不變一定の確く頑陋なる樣式に拘泥し結晶することなく、絶えず厭はず躍動し進化しつゞけてゆくであらう。そこには暴慢な壓制者も卑屈な奴隷も居なく、命令者と使用人とは姿を見せないであらう。そこには清冽なる泉に沿うて綠の芝生が廣く擴がり、敎會が都市の姿に重い威嚴と美とを與へる好位置に建てられてあるだらう。人々は、厭くまで、眞の自由と正しき愉樂とは永生するであらう。人々はこの都市に愛住して、自分の頭や腕などを、彼等をいゝ加減に選んで雇ふ打算者達に、哀しく不當に買つて貰はなければならないことはなくなるであらう。すべての人々の最大限の文字通りの幸福を自由に得るために、全らゆる努力を充分協力させ得るやう注意深く組成されたる組織の中で、人々は自らの知識能力趣味等を共同生産のために利用することが能きるであらうそのうえ、各人の個人的發意のための廣く自由な餘裕と餘地とが充分殘されるであらう。人々は嘗て失つた自らの仕事に對する制え難い愛着と才能とをとり戻すであらう。かうして、都市は、遂に生きて絶えず生長しつゝある完全なる一つの有機體となるであらう。惠まれたる新しき文化は、こゝに、内は選ばれたる黄金よりも重く貴き本質を有ち、外は白晝の太陽よりも優れて燦然たる藝術的表現を有つに至るであらう。

こゝに言ふ新しき都市は、決して、單なる机上の空しい都市計畫法の如きものによつて空理に理由づけられたる砂上の樓閣の如うなものではない理想は空想ではあらぬ。新しき都市の計畫は、も早や單なる瞑想家の思索の問題ではなく、何日かは必ず到來さるべき實行の問題である。歪み創けられたる近代都市文化を文字通りに本然の文化の姿に歸へすがいゝ。新しく正しい都市とその優れたる文化とは、そこに、必ず、芽生え生長し初めるであらう。

# 震災と都市問題雜觀 (二)

楠原祖一郎

## 家の問題

### 1 獄舍か家か

永らく西洋に住むとさうでもない樣だが、日本の人は始めて外國へ行つて、アッパートメント式の家に住むとなると、大變嫌な感じがするものだそうです。

それは何故かと云ひますと、外國は皆マッチ箱式に、石か煉瓦で築き上げた窮窟な建物で、日本の樣に襖一つ外せば隣室も、兼用出來ると云つた樣に出來て居らぬから自由がきゝませぬ。それで又一つの家に多人數の世帶がありますから、それ等との交涉が中々、日本の樣に一家族が一戶に割據してゐるのと比較すると大變な相違です。

所で、此頃の日本は何れも此のマッチ箱式の家を、石や煉瓦で建てゝ行かうとする傾向があります。是れは日本の樣に小さな見苦い家よりは私は非常によいと思ひますが、何だか監獄住ひを拵らへて居る樣に思はれてなりませぬ。日本には日本の趣きがあります。妄りに西洋の摸倣ばかりも出來ない所があります。地價の高い平面を見苦い建物で埋めるよりは、同じ面積で、上に伸びると云ふ事は、經濟上望ましき事でありますが、それも時と塲合に依るのであつて、一概に云へるものではありませぬ。世界一の高層建築を有する米國のシカゴや紐育では、一つの室に居を定めると、其の室の都合に依つて、一年でも二年でも室に日光の放射せない室が澤山出來るそうです。上に伸びるのはよろしいが、這ふ無理に伸ばさなくともよいと思ひます。そうして自分の室の鍵をキチンとかけてコツコツと音をたてつゝ、夜半でも夜中で

も一向頓着せずに出て行つたり、又歸へつたりするのを、室の中で聞いてゐると、中に居る人は自分が監獄の獨房にでも入れられてゐる様な氣がするそうです。その様な狀態では一寸自分の家だと云ふ氣にはなれますまい。尙西洋建築は衛生方面から見ると合理的だと云ひますが、多人數居るアツパートメントなどで、獨身者が長いヴエランダを傳ふて便所に行くのがうるさいから、自分のルームに鉢や其他の適當な容器を置いてそれで事を便ずる等、便器と相住ひでは如何に考へても面白い事ではありませぬ。

同じ住むなら監獄の様な家を選びたくはありませぬ。又同じ建てるなら、獄舍を建てる様な恰好なものを建てゝ欲しくはありませぬ。

## 2　石の家と木の家とどちらが好いか？

今度の地震は吾等に大きな疑問を與へました。即ち、石の家と、木の家とがどちらが果して吾々の爲めに好いか？と云ふ事ですが、家と云つても石の家なら火には燃へませぬ。その代り壞れ易いものです。日本の様に木の家は直ぐバチバチと燃へますが、地震に對しては石の家の様に、そう壞れる率が高くありませぬ。日本の家でも專門家が來て、ウマク組合せて建てゝあると、地震に對しては可成堪へる様です。そこでどちらがよいかと云ふ事ですが、今度の地震に依つて見ると、日本では日本式の建物が好い建物が好い様だと云ふ議論が可成り有力であります。即ち今度の壞れた石造の建築の中でも、日本人が設計して、そして工事監督をして建てたものは比較的に、その損害率が少かつた様ですが、外國技師がデザインしてそしてその人に依つて建築工事が監督されたものは損害の率は前者に比して大きかつた様です。

是の實例から見ると、石造建築は好いものであつても、是れを建てるには日本人の技師が、自分の國の特殊の事情を考へて建てるに限ると云ふ事が、吾々の頭の中に浮むで來るではありませぬか。

吾々が申すまでもなく、大都市の建物は凡べて堅牢で、不可燃物體に依つて建てられねばなりま

せぬが、其の建て方に、日本の固有の事情を加味しなければならぬと思はれます。

木造家屋は、吾々の安息場所としては實に氣持ちのよいもので、堅い〳〵石の室の事務室から歸へつて、座蒲團の上へ据ると、ソファの上に据つた樣に、氣持のよいものです。そんな氣持ちのよいものを、無理に建てさせない樣にする必要はありませぬ。それ等もどんどん建てさせればよろしい。だが無定見無計畫に建てさせては何にもなりませぬ。そんな事をすれば、聽てそれは貧民窟を造る樣なものです。それは却つて都市を汚損する事になります。だから、一定の面積を限つてそれに對して幾戸の家を建てると云ふ條件附で、家の周圍に空地を存在せしむる事を強制します。そうすれば、木の家でもよいと思ひますが、然し之は比較論で、本質上の問題から云へば、一ヱーカーの地にパブリックの用を爲すべき空地を存せしめて、其の殘分に幾戸の家屋を建設すると云ふ條件を附し得るならば、私はどんどん石や煉瓦の耐火構造がよいと思ひます。

### 3　人口の密度と家の戸數

大阪市の面積は、三、七九平方里でありまして、現住人口は百三十四萬六千四百七十一人であります。そして現在戸數は三拾萬三百二十四戸で、現住戸數一戸に就き、四、四八人宛居住してゐます。一方里に就き現住人口の密度は、三十五萬五千六百六十三人の割合であります。

又同じ意味から東京の狀態を見ますと、東京市の面積は五、一六平方里であります。そして現住人口（震災以前のもの、以下皆同じ）を見ますと、二百四十三萬五千三百十人で、現在戸數は六十三萬九千八百五十九戸となつて居ります。尙一戸當りの平均居住人員は三、八二でありまして、一方里の人口密度は四十七萬壹千九百六十五人强の割合であります。是れを今大阪の狀態に比較して見ますと、面積に於ても、人口に於ても、現在戸數に於ても、ザット二倍に近いものであります。所が大阪の一家屋内の平均居住人員は、四、四八となつてゐますが、東京は、三、八二でありますから、

大阪よりは可成り少ない樣ですが、一方里の人口密度になりますと、大阪のは三十五萬五千六百餘人で東京は四十七萬一千九百餘人と云ふ結果を示してゐますが、双方の差は約十二萬人以上違ふ事になつて居ります。ツマリ東京市中の人口密度は大阪のそれに比し、一方里に就て十二萬人以上の過群な狀態に陷つてゐる譯ですが、東京市内百萬坪に平均十萬人位居住してゐるのです。今度の災害の最も甚しかつた、本所、深川、淺草等の各區は、此の密度が尤も濃く、十二萬以上であつたそうで、兎に角日本で第一等の密度を示してゐる譯です、凡そ人の住む所には自から、一定の自然的の組織と云ふものがあつて、誰れが定めたと云ふ譯でもない、一つの社會的の不文律が存在してゐて、それが都市生活者の、極めて重要なる或る部分を占めてゐるものもあるが、其の組織の機能は人口の密度が過大となれば、其の密度自身が自壞作用を起すもので、從つて或る點迄人口が濃くなれば、自然又稀薄になる作用を起すのであります

而し私の云はんとするのは、人口密度の濃否其のものを云はむとするに非ずして、かゝる人口密度が吾々に一朝有事の場合、何を齎すものであらうか？と云ふ事であります。即ち人口の密度より來る、吾々の市民生活が如何に影響さるゝかに在るのであります。

### 4　人口の密度と市民生活の影響

北海道の或る田舍や、奈良縣吉野郡の山間部や其他交通機關の不便な土地では、一方里の居住人員は極めて稀薄で、それ等の地では一朝災害が釀された場合でも、其の損害の程度と云ふものは、そんなに遖ふされるものではないが、東京、大阪の樣に一方里に卅萬の、四十萬のと、殆んど場所に依つては五十萬人以上も住むでゐる樣な、密度を有する土地の場合は、今度の事變の樣な事が突發したならば、其の災害の度の高き事は殆ど、寧ろ餘りの大きさに驚く事も出來ない位でしよう

そして斯くの如き過群生活では、非常狀態の場合のみならず、平常の場合に於ても決して民心によい訓練を與へては居りますまい。社會の暗黑面

に於ける罪惡は、此の境遇に依つて製造さるゝ事が多いのであります。

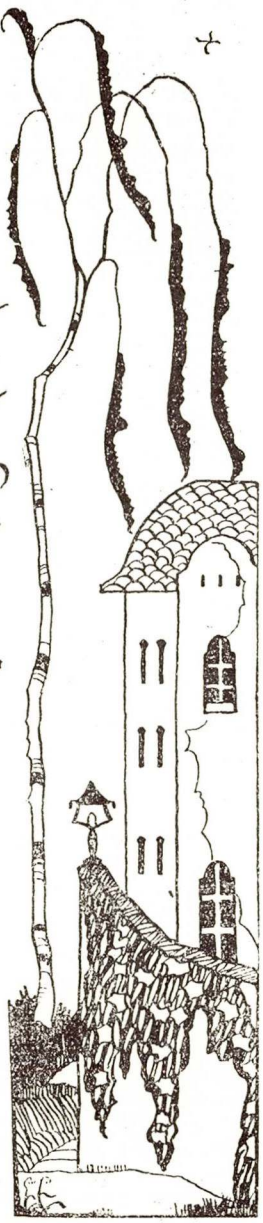
男女間の醜い性慾の鬪爭や、强盜殺人等の恐るべき罪惡は、此の混濁せる空氣の中に釀成され易いものであります。

即ち人口の過群狀態は、有事の場合は多數の尊き犧牲者を出さねばなりませぬし、平時の場合には、最も悲しむべき、スタート、オブ、ライフを誤るものであります。又他方面から考へて見ますと、まだそれ位には留まりませぬ。過群生活の吾々の經濟生活に及ぼす影響も可成多大なものがあります。

其の一二の例を擧げますと、過群狀態の所では原則的に殆んどその居宅と云ふものは小さくて、到底多人數の生活に適するものではない。が實際その小さな家に澤山な人が住むでゐる。統計の上では大阪は四、四八人となり、東京は三、八二となつて居りますが、實際の狀態は中々そんなものでなく、疊一枚に二人位住むでゐる所もある位ですから、その狹隘さと云つたら、廣い美しい家に住むでゐる人の想像も出來ない樣なものです。それですから、其の人々は其の家に居る間は不愉快な生活を送らねばならぬので、從つて夫れに原因して種々の生活上の故障が起つて來るものであります。此の故障と申しますと、所謂經濟上の故障で、種々の目に見えない負擔が嵩むものであります。家の中に居つては面白くないから、從つて娛樂でも、何んでも家の外で求めなければならぬから、美しい家に住むで居つたら、自分の家で娛樂や何かを求め得るものですが、それが出來ぬから餘計な費用が嵩むものです。見苦しい家に住んで貧いものを食ふて、そして病氣になつて、高い醫者の藥を飮まねばならぬとは、割の惡い話ではありませぬか。過群な生活をしてゐると、不知不識の間に斯くの如くなる樣になるものです。

そうすれば、こんな嫌やな過群生活を、うまく具合好く改める方法はないか？と云ふ質問が起りましよう。その方法は、幾何程でもあります。

先づ此等の弊害を改める最もよい方法は、ごしごし公園を作る事です。次にそれに就て述べましやう。（つゞく）



# 新住宅に相應はしい庭樹

方米次郎

新時代が生んだ幾多の産物の中で、吾々の生活改善の眞の基調たるべき、所謂改良住宅こそ今後益々推奨すべきものであつて、それに附屬した庭園も、當然舊い觀賞本位の因襲的の型から脫して新らしい、實用本位の現代的のものとならねばならないのは當然である。そこで之等現代風の改造住宅には又それに適當した形態や、色彩の庭樹を撰び、庭園の構成材料を充分に吟味して家と庭との調和を計ることが必要である。

凡そ庭樹の美觀は色彩、形狀、大さ、四季の推移による變化等によつて大別されるが、混植の場合は兎に角、單植する際は殊に注意を拂つて撰擇せねば環境との調和に於て思はぬ失敗を招く事がある。もと〳〵植物は天然に於ける氣候上の要素即ち温度、濕度、日照、通風等の條件によつて分布を異にしてゐるから、庭樹を撰ぶにも其土地の

氣候は勿論、その立地、(植場所)の射光、風透しの加減　乾濕の具合、地下水の高低、化學的及物理的の土壤の良否等を豫め考察してかゝらねばならない。

庭園は或る意味に於て、住宅と相俟つてその實用的目的を完成せんが爲の戸外室であるから、衛生的で然も美的な、住み心地のよい庭を造るには種々な構造を必要とする。そしてその材料として芝や、庭木は必ず無くてはならないものである。庭木の主なる用途を數えあげると、第一は裝飾であるが、美觀的方面を離れて實用的方面から見ると日射、通風の調節の如き衛生的價値は勿論、塵埃、煤煙の阻止や、萬一の際の防火等の用途もあつて、尙附近又は邸内の醜惡なものゝ隱蔽並に境栽としての生籬等にも亘つてゐる。

一般に裝飾用の庭木は寄植にもするが、多くの場合並木又は孤立木として住宅の玄關前や、馬車廻或はその兩側に單植したり、又前庭後園の各處花壇の中へ點々と景致の强調材料として、散植したりする。然し最も主要な使命は住宅建築に於ける本館建物や、離れ家、亭、四阿屋或は門等に添へてその建築を裝ふことである。

日射、通風を適度に調節する實用的使命を果たす爲の綠蔭樹としては、周年日蔭を欲することはないから、普通常綠のものを避けて葉の大きい落葉するアオギリ、プラタナス、トチ等が用ひられる。防風樹として具ふべき條件は常綠であつて、軒の高さよりも高く成育し、且根張りの強大な相當風壓に抵抗し得る丈夫なものでなければならない。特に海岸地帶の別莊等で鹽風を防ぎ砂粒の飛散を阻ぐには鹽分に侵されてないもの即ち、クロマツ、マキ、クス、マサキ、イブキ、カシ、ツバキ、エノキ、ポプラ、ニセアカシヤ、トベラ、ネム等を撰べば安全である。工場の多い地區や精錬所のある鑛山地方の住宅では煙害の恐れがあるから强壯なものを撰擇せねばならない。煙害に對して被害の少ないものとしてはニセアカシヤ、ツバキ、モチ、サカキ、ヒサカキ、マサキ、クス、シヒ、カシ、イテフ等であるから市街地の住宅庭園にもかゝるものが丈夫でよい。非常時の防火用に

は不燃燒物でないから絶對性のものではないが、萬一の際に多少でも火焰を防ぎ得る可能性のあるものとしてはイヂフ、サンゴジュ、ユヅリハ、ヒメユヅリハ、タラエフ、カウヤマキ、ヤツデ、アオキ、ツバキ等で一般に濶葉樹の葉の厚い常綠のものが此効果を齎らす性質に富んでゐる。陰蔽用植込には生籬と同樣で成育が比較的速く強壯な性質を具へ所要の高さを有し、可成枝張が密であつて刈込に耐える常綠性のもので且煙害や病蟲害、塵埃の侵害に對し抵抗の大なるものが尙ばれる。即ち以上の各條項を具備したものとしては、五六十種を列擧することが出來るが、特に美觀を兼ねたものではカヤ、マキ、ヒバ類、カナメ、ネヅミモチ等で列植するにはタウヒ、ツガ、モミ、カウヤマキ、ヒマラヤシーダー等も面白いと思ふ。

植物學者の調査によると世界に於ける主なる樹木の種類は約六百種で、顯花植物總數の約百分の三、五しか無いが、日本では溫帶地方が多い丈分布された樹木の種別も比較的多く本邦の全顯花植物の約十分の一を占めてゐるそうである。樹木は觀賞の目的からその觀賞すべき部分が花を主とするもの、葉を主とするもの、或はこの兩方のもの又は樹姿全體のもの等に便宜區分が出來る。又樹冠の形狀によつて樹木の外貌を區分すると整型のもの（尖塔型、圓錐型、圓柱型、長楕圓型、圓型傘狀型等）と不整型のものとに概別することが出來る。之等の中で整型樹は規則的な直線式の外廓（アウトライン）線を有つ歐米風の加味された現代住宅には特に克く調和するのであるから、住宅の建築樣式やその屋根瓦、壁の色彩等を考察してそれ〳〵庭木撰擇の標準を定めねばならない。又實用本位で觀賞を兼ねて果實の採收を目的とする人達はカキ、クリナシ、モモ、イチヂク、ウメ、ブダウ、スモモ、スグリ、カンキツ類を庭木材料として撰ぶのもよい。

要するに新時代の住宅庭園として最も相應しい庭木は凡そ次の各條件に塡まるものを推したいのである。

一、成る可く樹冠（枝張）が整型のもの、

二、樹勢が強壯で病蟲害や乾濕に對する抵抗の

強いもの

三、單に觀賞的の用途のみでなく實用的の用途（日蔭とか日隱しとかの他に果や花や葉の利用價値の多いものを意味す）あるもの、

四、比較的管理の容易なもの、

それで之等の凡に適合したものを撰ぶことは困難であるが、配植上の用途によつて主なるもの約百種を左に項別に列擧してみよう。

(一)門内や玄關口附近の植込によいもの、

カウヤマキ、タギヨウシヨウ、モツコク、ヒマラヤシーダ、ソテツ、タウジユロ、ヤツデ、イヌツゲ等、

(二)建物廻りの植込によいもの、

モクセイ、モミ、タウヒ、モチ、クロガネモチ、ユヅリハ、ツバキ、カウエフザン、タイサンボク、カヤ、アカシヤ、タラエフ、ネム、ヒバ類、ユーカリ等、

(三)庭先裝景用のもの、

ヒノキ、スギ、クロマツ、ナギ、クス、ツガ、オガタマ、カラマツ、ラクウシヨウ、エゾマツ、ゲツケイジユ、ケヤキ、エノキ、ミヅキ、イイギリ、モクレン、コブシ、ハゼ、サクラ類、ウメ、カヘデ類等、

(四)全下木用のもの

アヂサイ、ボケ、ユキヤナギ、ニシキギ、エニシダ、サツキ、キャラボク、シヤリンバイ、ハヒビヤクシン、ドウダン、アスナロ、ナンテン、マサキ、ヒサカキ、アオキ、シヤクナゲ、ヤマブキツタ、サヽ類等、

(五)花壇添景用のもの、

ユツカ、マルモノイブキ、カイヅカイブキ、ツツヂ、バラ、ボタン、ハクチヨウゲ、チヤボツゲチヤボヒバ、チヤボクチナシ等、

(六)日蔭用のもの、

アオギリ、トチ、ホヽノキ、ゾラタナス、ユリノキ、ニセアカシヤ、エンジユ、サンカクカヘデ、イテフ、キサヽゲ、フヂ等

(七)隱蔽生垣用のもの、

シヒ、カシ、カナメ、ヒヽラギ、キヨウチクト

ウ、サザンクハ、ネズミモチ、ヒノキ類、サンゴジュ、マキ、ウバメガシ、クチナシ、カラタチ、キヅタ、レンギョウ、ムベ等、

以上は必ずしも恰好の庭木ばかりを擧げたものではないが、この中で住宅や土地の狀況に應じて適當なものを撰擇して頂く爲に參考にもと、從來本邦て庭木として普通なものや、近頃船載輸入のものをも加へて記した次第である。庭木の移植や管理に就いては他日稿を改め述べることにして、一先づこれで擱筆して置くことゝしよう。

（一三・二・二〇）

つもりては拂ふ方なくなりぬべし

塵ばかりなることゝ、思へば

# カリフオルニアの南歐住宅の內部裝飾（一）

川村種三郎

住宅の主要部分である內部の取扱の上に多少參考になる點もあると思ふから、米國加州のスペーイン及イタリア風の住宅の內部裝飾についての、ボードマンピツケツト氏の簡單な記載を抄譯することにした。

## 單純な建築への復歸

イタリア風の建築の內部裝飾は尙幾分か裝飾的であるけれども、スペーイン風の內部裝飾では『單純』（シンプリシチー）が最も重要な點である。併しいづれにしても此等の家々には廣々とした氣分と、氣持のよい落付きとがあるものである。

最近では種々の室內の家具を餘り凝り過ぎたり餘りせゝこましく細部を取扱つたりするのを出來得るだけ避けて、飽きのこない、豐かな溫みのある色彩をもつた雅致と品位のあるものとの考が一般に著しくなつてきた樣である。

同じ米國にでも或る地方では單純化しながらアングロサクソン風に復つてゐる傾があるのを見るけれども、カリフオルニア地方ではこの頃のタリアやスペーイン風の建物は、其の地方の以前からの南歐風の建物（特にアーリーミツシヨン時代の）で作られてゐた今までの土地の空氣にシツクリトあつてゐる。

同じ樣な氣候の土地に住んでゐる異民族の人々でも、——たとひお互が非常にかけ離れた場所に住んでゐても、——住居近くに同じ樣な材料があ

ればその造つた建物はほとんど相似た風に發達するといはれてゐるけれども、それと同樣な條件で作られた內部裝飾や家具類がほとんど同樣の型をとるかどうかは疑しいことである。それは言ふまでもなく此等內部の諸設備は住居する人々の職業や、生活樣式や、個性に密接な關係があるからである。

カリフオルニアの氣候はスペーインやイタリアと非常に似通つてゐるけれども、土地の風習が南歐のそれと非常に相違があるのだから、スペーインやイタリアでの住宅の內部裝飾を總てアメリカ人が望んでゐるものとして採用する樣な簡單なわけにはいかないのである。しかも太平洋沿岸と非常に生活狀態の相違してゐる東海岸や中部地方から、最近に移住してきた人々が特にカリフオルニアには尤部分を占めてゐるのだから。

固定しきつた因襲や、定まりきつた趣味性は次第に此の土地にも育くまれてゐたけれども、カリフオルニアの風土に最も好適なものを取り入れ樣と努めてゐる新入者によつて此等の因襲は一變され、根絶されたのである。そして此の樣な新たな活氣のある狀態のもとでの變革の時期には內部裝飾品の興味ある樣式がよりよく發達するものである。

カリフオルニアの最近の風潮を見ると、ほとんど總てのスペーイン風の『プラスターハウス』は純スペーイン風を取り入れようと努めてゐるけれども、實際に於てはこの地方の建築家はスペーイン風の建築よりも、イタリアや、メキシコや、アズテックや、又はホツピインデイヤンの建築の方をより以上に精通してゐるものだから、その形跡がほとんど總ての建物特に住宅にあらはれてゐるそしてそれで或一つの特長のある形式が出來上つてゐるのだから、スペーイン風とか、イタリア風とかと限定しないで、此等の建物を南歐風と言ふのが最も適當ではないかと考へられる。

## 南歐風建物の特長（附、家具引換所）

窓や廣々とした壁面や、タイルの床や、或は扉の上の深いレビールに對するプラスターの厚い壁

や梁を出したり又は顔料や油を塗つた木の種々と取り合せの天井は、あの南歐の親しみを思ひ起さしめる。

家の側面には小さな窓が作られ、長いフレンチドアーが内庭に開かれてゐるのなどを見ては、氣輕なスペーインの家庭の溫みを追想して微笑される。

カリフォルニアは非常に溫暖なために所謂『スパニッシュ・バチイオ』とか『イタリアン・ロギア』とか言はれてゐるものが造られてゐる。それが丁度南歐に於いて非常によく利用されてゐるのと同樣に、此處でも盛んに使用されてゐる樣である。

暖爐はアメリカでは——南歐でもそうであるが——日常家庭生活での中心點を形作つてゐるけれども、カリフォルニア地方の寒さの程度では暖爐を必要とするほどでもないものだから、イタリアやスペーインの暖爐の代りにブレイザー（一種火鉢）が使はれてゐる。

言ふまでもないことであるがカリフォルニア市を中心とした家具裝飾品製作業者とその小賣商人とは、此の地方の建築の傾向に非常に注意をしてゐるけれども、一般客も亦家具裝飾品を選擇する場合は、その家の樣式や、窓と入口とに關係された壁面の廣さと場所とを考への基礎とせねばならない。カリフォルニアで南歐風の住宅を建てたり又は新たに買入れたりする人々が今まで使つてゐた古い家具類を取り換へて、イタリアやスペーイン風の新しいものを使用して新しい氣持で生活し初めようとする時には、小賣の家具裝飾店の家具引換所を非常に便利に利用することが出來る樣になつてゐる。

ロッサンゼルスのバーカー家具裝飾店の地下室の引換所は此の地方で生活する爲めに東部から移住して來た澤山の人々の家庭にせひ必要な家具類を供給する『砂漠のオーシス』をつくつてゐる。

眞の美術と商業上の利益とは、いついかなる時でもその樣であるがアメリカの家庭のイタリアやスペーイン風の家具類の上にも、やつぱり融和されてはゐないのである。

澤山のスペーイン風の住宅をみても、無理からぬ點はあるけれども、うるほいのない干乾びた、うら寒い氣持が漂つてゐるお氣の毒なことではあるが此の地方の建築家にはまだほんとうにイタリアの樣式さへ充分呑み込んではゐない人が多いのであるから。

バーカー商會のエッチ、エッチ、キャップ夫人はアメリカ化された南歐風の家具の使用を切言してゐる。これは本物であると推薦されてゐる不自由な家具類よりも南歐の氣持の充分に出てゐる豊かな親しみ滿ちた敷物や壁掛や、家具をアメリカに於てアメリカ化し作り出さねばならないと言ふのである。

小さい鐵のブレイスウォークや、一脚か二脚のスパニッシュレヂサンスの椅子、或は鐵製の燭臺のついてゐる食器棚等からは充分スペーイン風の親し味を感じる。

過去數年の間我々の住宅の部屋部屋のあの亂雜さを一日も早く改めしめ樣と努力してみた。一室に七八枚も畵がかゝつてゐたのを二三枚を餘してその他を全部取り拂はしたり、大まかに細部を取り扱はしめる樣に努めたりして内部裝飾の改良には人知れぬ苦心をつゞけてきた。

## 變化に富む壁面の仕上げ

次ぎに現今のカリフォルニア地方の南歐風の住宅の内部裝飾法について申し述べたいのであるが先づ第一に室内の壁面の取り扱ひ方については、此れは總ての室内の家具裝飾品バックグラウンドを形作てゐるものであるから、南歐風の取り扱ひのものに於ては簡潔で一般に飛び離れた樣な調子を避けなければならない。

此の調子については建物の型と個人の趣味とによつて相違のあるものであるけれども、一般には多少の掃き目の見へる鏝仕上げの白漆喰塗にする傾向が多い樣である。

此の扱ひ方は幾分でもスペーインの百姓家の氣分をとり入れた家にはよく用ひられてゐるのであるが、此の樣な家では木の重々しい梁を表面をば黑く奥行きのある色に仕上げる爲めに、油を塗つ

て磨いてゐるか、或は他の場合には簡單な模様を青や、赤や、その他種々な色で畫いた餘り重々しく感じない梁を用ひて前と反對の効果を出す様に努めてゐる。

（壁掛け）や、溫か味の勝つた豊かな色彩の繪畫や其他種々の家具裝飾品のバックグラウンドとして、白色の壁の氣持のよい簡潔さは最も賞讃すべきものであるが、唯、此の白壁のみを見てゐては不愉快に思ふ人も多い様である。併しこんな人々でも氣持のよい壁掛や、美しい繪畫や、或は南歐風の家によく調和した黒つぽい、深味のある、重々しい家の間から見へ隱れする、強いコントラストの白壁の美しさには思はず感歎の聲を出すことゝ思ふ。

ロッサンゼルスのカリフオルニア・フアニチユアー・カンパニーはこれ等のプラスター・ハウスのために各種の仕上品を販賣してゐる。

トラバチン・ウオールはイエローグレイや、ブラングレイの種々な混合で此等の思ひのまゝの色合を出すことが出來得る様になつてゐる。此のトラバチン・シーリングの代りに、酸性の顔料でプラスターの生地に直接に彩色をすることも屢々あるが、此の方法を用ふると日光を受けても彩色された部分が褪色しないので非常によい方法ではあるけれども、トラバチン・ウオールよりも多少高くかゝる缺點がある。

カンバスにも同じ様な混合で彩色をするのだけれども、カンバスはトラバチンの様に結果はよくなくて、尚餘り安くはないけれども一般によく使はれてゐる。それはカンバスは壁に出來る龜裂を防ぐことも出來るために一度カンバスを張つておけば幾分か永久的でもあるからである。

彩色のある壁紙は普通一卷約二弗であるが、これを使用すれば費用が約三倍になるけれども、彩色されたカンバスとほとんど同様な功果が出る。エヤー・クロームの壁紙は一つの繼目もなく全壁面を仕上げることが出來得る様になつてある。

ロッサンゼルスの他の大きい家具裝飾會社には南歐風の住宅に相應しい、仕上げ面に小さな凹凸が出來て平坦なスベ〳〵した感を與へない、自然

のまゝのプラスターを販賣してゐる。色はグリーニッシユ・ブランかオーカーで、しかもその色調にはさびた落ちつきがついてゐる。

## タペストリーの愛用

簡潔な色調の壁はタペストリーの立派なバックグラウンドをつくつてゐる。此れの愛用は南カリフォルニアでは特に著しいのであるが、一般に如何に多く愛用されてゐるかは小賣の家具商のタペストリーの賣行を見ても充分證明されてゐるのである。

バーカー商會は一枚三〇〇弗前後の種々の好みのタペストリーを多數にもつてゐる。こゝにはフランスや、ポーランドから輸入された手織の物もあるようであるが、多くは機械織のものである。四五人の人物を中心とした森の景色などは最も普通にありふれたものである。バーカー商會には又プラスター・ウオールの裝飾として、其他種々のものを販賣してゐる。

金や銀で美しく縫つたガロンや、其他の立派な法服、豐かさの滿ちてゐる古いブロケイド（錦襴）や、シルクダマスク、スペーインの昔時を偲ぶブロンズの額縁や、種々なはなやかな模樣の陶磁器は壁全体に言ひしれぬ微妙な變化を與へてゐる。

十字架のキリストの聖像や、尊とい種々な場面を描き出してある繪畫の納められてゐるニッチは非常に氣高い、清々しい氣持を漂はしてゐる。そうして一般に餘り澤山な畫や鏡などを壁面に掛けることは差し控えられてゐる。

カリフォルニア・ファニチユア・カンパニーには一〇〇弗から二〇〇弗までの實に立派なタペストリーが販賣されてゐる上に、有名な採集の古代フレーミッシユ・タペストリーが一枚二〇〇〇弗以上に値段づけられてゐる。この樣な贅澤な純手織のものは別として、機械織に少しく手織を加へたものが三五〇弗見當で販賣されてゐる樣である

此處の商會ではカリフォルニアのプラスター、ハウスが特にどんな風に裝飾されてゐるか又一般の人々はどんなものを好んでゐるかを充分に見極めることが出來るのである。

スペーィン人や、イタリア人はもし室内を品位を保つたものにする時は、室内を出來得るだけ簡潔にして決して壁面じかに裝飾をやらない樣にしてゐる。

今メリー、リッチモンド嬢の住宅の書齋を見るとその壁は英國のブラス、フヒギュアーから取つた黑と白とのラッピングで蔽はれてゐる、興味深い祭衣や、中世紀の武器が飾られてゐる。此のラッピングは無地であるからそれに種々な彩色豊かな裝飾品を最も巧妙に取り入れることが出來得るのである。此の家の內には最近發見されたフレスコ、ペンチングのうちから取つた、ダンテの書が落ちついた赤い額緣に入れられて掛つてゐる。これがこの家のリビングルームの壁に一つの溫か味を與へて、この部屋にはいつて來た人々には言ひしれぬ親しみと、落ちつきとを感せしめてゐる。

グリーとゴールドとの楯に描かれた優雅な鳳凰の模樣は、アーチになつてゐる廊下の壁面の美しさを呼び起してゐる。簡潔な壁面とそれに掛けられた種々な裝飾物——これによつて或時は輕く、或時は重く、適するまゝに、好むがまゝに、それ等の部屋部屋を自由に取扱ふことが出來得るのである。（未完）

わだの原しほぢ遙かに見渡せば
雲と波とは一つなりけり




# 關東方面震火災被害視察日誌【三】

小川安一郎

十　二　日

一、本日は明十三日が歸店する日程なる爲め歸阪の準備をなし、東京支店に行き出張員諸氏並に平賀氏に挨拶をなし、一行と『ステーション』に行きしに前々夜の大風雨の爲め、箱根の徒歩連絡が不通となり、三時間位の連絡時間を要するとの事なりし爲め、横濱より清水港へ連絡する乘船切符を受取る事になり居りしも、『ステーション』に付く事が早かりし人は、乘船切符を受取る事出來たれども、私は時間の都合上遲かりし爲め、渡し

濟なる理由の元に、如何なる方法を以て懇願しても不可であつた、夫れが爲め、私の歸阪方行を變へ、丁度十四日は、日曜に相當するを以て、十三日の晩歸るも、十四日に歸るも、事務所の都合は一つなり、丁度幸ひ、私に取りては斯の如き『チヤンス』に大船、小田原、箱根等を充分視察して歸店する事は、甚だ面白き事と同時に、是れを決行するには、非常の決心と、努力を要する事は勿論なれども、店の視察員が此の方面に一人も行かれなかつた事とに依り、或は思はざる何物かがあれば、大に事務所の爲め、自分の爲めも好都なりと思ひ、即座に斷行して一行と共に、下り列車に乘り込み横濱にて兩君に別れ、兩君に充分横濱視察を依頼し、私は大船に下車して同地の田園土地會社の文化住宅を見學する事にせり。

## 大船田園土地建物會社文化住宅

一、同會社は最近創立せられたる會社にして事務所を加へて七軒の文化住宅が出來上り居れり。内三軒は二階建て殆ど全潰同樣、外二軒建も平家住に不絕、事務所は安外破損少し他の二軒は工事中なりし、

一、二階屋に就て取調べたるに、次の樣な施行をなし加ふるに、此の地盤の惡しき所に建築せられたる爲め、斯くの如き慘狀を見たるならんと想像せらる、

(イ)地盤が田圃を埋立てたる所で地形が東北に山を控へたる谷間の如き所なる事、

(ロ)基礎工事は地盤を少し掘り下げ大砂利を突固め、根積に大谷石を七寸に六寸に、三尺位の者を二段石灰土を以て積上られたる事

(ハ)土臺をアンカーボールトにて締付け置かざりし事、

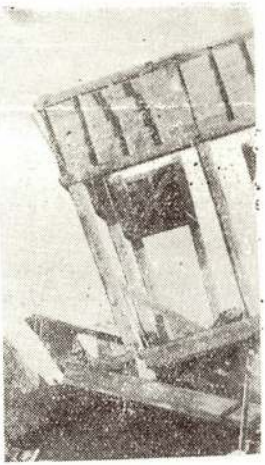
(ニ)柱が三寸角で米松を使用し、窓楣及敷居鴨居は皆枘差し大入れを成さず、胴付の釘付けであり、且つ、米松なるが故に二三分の間隙を生じ居りし事、

(ホ)小屋合掌の仕口を羽子板金物及ボールトを以て締付けあらざりし事、

（へ）仕事が非常に失禮だが、粗末でありし事である、

右の樣な理由を有する建物なる爲め、突然此の大地震に對して耐へ、完全に殘る事は不可能である事は當然である。

右の說明を一々詳細に申上度きも、是等の事を私が申上ずとも、建築家である以上、素人でも分明する事故申上げる事は止す、只建築が安價であればよいと云ふ事を表曝した爲め、此の樣な事になりしと思ふ、今一つは根積の大谷石を一段にせし家は根積は崩れる事はなきも家は半倒れ位に止まり居るも、大谷石の根積が二段に積重ねて建てられたる家は前申した通り石灰土



小田原町午砲鐘樓の逆倒（構造の堅牢なるを證す）

を以て積上げられたる爲め、外部の方へくの字形に崩れて家の方に大影響を及ぼして居る事から見れば、大に注意すべき事と思ふ。

右七軒の家で事務所が辛ふじて事務を取られ得る丈で、他は大改築をせざれば其の用をなさず、甚だ氣の毒千萬、會社の運命も想像せらるる次第である、何卒建築家たる者は親切に、仕事をすると云ふ事を忘れてはならない事は申す迄すもなきことである。

其の重なる部分を二三枚寫眞に寫したるを以て御覽に入れる事に致します（寫眞參照）

最早下り列車の時間切迫せし故急ぎ一目散に走りてやつと列車に乘込み國府津驛に向て發車せり

## 馬入川徒歩連絡に就ての見分所感

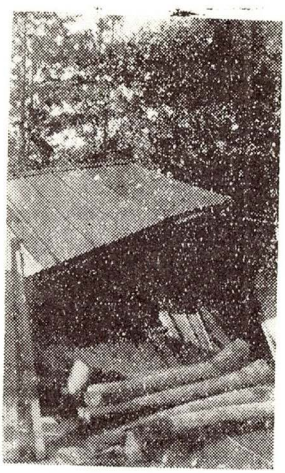
一、馬入川は往路にも徒歩で渡りたれども東京へ早やく行て見たいと云ふ事が、頭に染み込んで居つた爲めか、只鐵橋が恐ろしく破潰して居る事位で、あまり深く考へて見分する氣も起らなかつたが、歸りには國府津迄と云ふ事が頭にある爲めか色々の者が目に付いたので、面白くもないが一寸

書て見たくなつた。

一、鐵橋破損の狀況を觀るに、鐵橋の橋脚が大低南約二十度、東から西へ約三十度位の方向に、又是れと反對にレールを負ひながら倒れたのは如何に震動が強かつたかを想像せらるゝのであると同時に、あの立派なる鐵道のピヤーが倒れ潰れしものであらうかと如何にも不思議の感がするのである。

一、今一つは此の馬入川の河原と云はず、水面と云はず、橋脚と云はず、一面に木材、死骸が累々として横はり、又橋脚に搦まり、是れが爲めに假橋の橋脚の如きは大に弱められ見るからに危險である實に其累々たる狀態が恰も被服廠跡の人間の死体の慘狀の寫眞を見る樣な感を起せり、大抵其の太さは、一間半より二間短きは五六尺位で直徑は五寸一尺大なる者や、二尺以上の者も多々見受られたり、是れが殆ど、皆右位の長さにもぎ折られ折口は筵簀の如く、皮と根は奇麗にむくられたる立派なる材料が數限りもなく並び、浮び、河原を覆て居るので實に不思議に感ぜられたのである

一、是れは地震の爲め、馬入川の上流の山が山崩をなし、夫れに水が出て或は大雨の爲め、流れ流れて下るに從ひ、石に當り、又は自身で擦合して斯の如き殘骸を呈したのである、此殘骸の多いのは何度も申す樣だが、實に驚くの外ない位に澤山である。



小田原より湯本への途中亞鉛葺屋根の倒潰

一、是れが爲め、平塚芽が崎方面の住民は皆是等を引上げて建築材料と成す考であつた、其材料にならざる者は、小供や婦人が拾ひ取り山と積み上げ薪炭の料になすらしいのである。

一、夫れ等の人々に尋ねしに、此の材料に依り此の上の方の一町村の如きは、地震で家は潰れたれども材料を只得る事が出來たので家を建てると同

時に一ヶ年以上の薪炭には窮しないと喜んで居つた、今は警察で相當の材料は保管する事に成つて、吾々人足となり働いて居るので、又直接御金になるので喜でゐますと、何れにしても地震の餘澤を有利に被つた事は誤りない事である。是れも震災視察の『バイプロダイト』として記して置く事にした。

一、國府津驛に着した時は午後七時頃、前に長谷部技師の泊られた(ツタ屋)に宿を取り、六疊敷に六名の同宿者とは實に驚かざるを得ない、けれども此の際如何とも致す事出來ず、一食一菜で一泊貳圓五錢の宿料で一夜を明した、同宿者には海軍軍人あり、商人あり、赤十字員あり、種々の職業人種が寄集つて充分なる震災氣分に滿ちたる一夜であつた。

十　三　日

一、今朝一行は、清水港に着かれる事と思ひつゝ國府津を六時に出發して、酒匂川迄乘合自働車に乘り、夫れより徒歩で汎濫せる酒匂川附近の田圃を横切り、工兵の架けたる假橋を渡り、小田原に向つた。

## 小田原町

一、此の町は、此の度の震災に依て尤も被害の甚だしかりし處にて丁度川崎町と同じく、一軒として全完なるものなく、其上火災が伴つた爲めに、一層損害を被り、死者も澤山ありしとの事、此の地は特に高貴の方の別莊地なりし爲め、尚更當時を遂想するに餘りある程である。

一、此の地は木造家屋が多き爲め、土臺の所や柱の下の腐れや、柄が緩み、筋違がなき等前に申した通りの缺點とあまり、此の方面が强度の地震の爲め、破潰せられたることは申す迄もなき事である。

一、今村博士も申された通り兩方に堅き地盤があつて、其の間に位する地盤が惡しかれば、兩方に震動が突當り、其の反動の爲め一層其の中間は震動烈しくなりて被害を蒙る事は多いのであると。

丁度其の理由の元に鎌倉大船馬入川小田原湯本方面が多くの被害を蒙りしは、當然の樣に察せられるのである。

で只山崩があつたので電車は埋められ、自働車は破潰せられし儘に、道路に放棄せられある爲め道路修繕人足の晝寢場或は小供の遊び所になつて是等の人々に幸ひを與へて居つた。

愈々天下の險なる箱根に差懸り、新街道は山崩の、通路破潰の爲め、通行不出來、又危險なる爲め新に裏の方へ狹き險しき道を開きて通行に便ならしめたり。

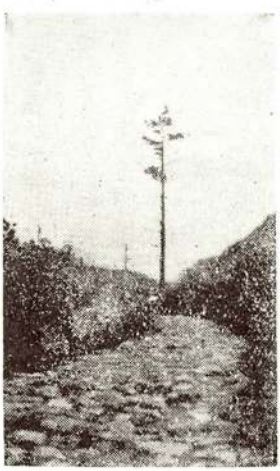
途中塔の澤、大平臺、等の慘狀甚だしく山崩の爲め全町埋づめられたる所を其の上より眺めつ、二三寫眞を撮影しつゝ宮の下まで行き、一と休みを成し腹を作りて勇氣を出し小湧谷、强羅附近を見物しつゝ視察せり。

## 宮の下

一、宮の下にて木造洋館張付煉瓦仕上の郵便局及び宮の下ホテルの破損の甚だしきを見たのであるが大抵の張付瓦の木造洋館は必ず張付物は剝落されて木摺及び柱及土臺を腐朽せしめて居るのである。

一、是れは即ち腐朽して居るから、剝落するので、又是れ等の張ぼて物は必ず雨を目地及其の外より吸込んで腐朽を早くせしむるので東京方面に不限各地にて甚だ多く見受けられたる事である、皆理屈は同じで、かゝる建築は可成く廢する方が危險がなくて宜しいのである、然し不得已時は大なる注意を以て防水劑を使用し雨水の浸入せざる樣建築すべしである（後出）

一、然し此の構造物は大低は倒れずに助かり居るのは皆各部に筋違を入れボールトを以て締付ある爲めに、地盤や地形に異狀がなき以上安全に保たし居るを見受けたのは注意すべき事と思ふ。



箱根蘆街道三島方面トリ路

# あばいどすの遺跡

## ―續「埃及遊記」（三）―

工學博士　天沼俊一

十月二十五日　（水曜、好晴）

去る廿一日開路市の古蹟保存事務所で市内寺院の拝觀券を買つた時、待つてゐる間に役人と話をしたが、其うちに私がAbydosをアビドスと言つたら、役人はアビドスは間違であれはアバイドスと發音するのだと敎へてくれた。どうも初めてきいたので、耳馴れぬせいか何だか變で調子も頗る惡い、併し苟も開路人士の言だから間違はあるまいと思つたが、試みに字引を引いてみたら、二種の發音があるが、其何れも頗る微妙な發音で、我國の假名ではアバイドスとかくより仕方がない。其上、此名の町は昔しのMysea國にもあつたので敢て埃及の專賣ではなかつたのだか、私は少しも知らなかつた事を正直に告白する、乍失禮恐らく知らぬ人も相當にあらうと思ふから、序に書いておく。

Abydosを埃及人はAbotwといふさうだ、アボツなら「阿保津」の字が丁度いゝが、この方は殆んど通用せぬから、も一つのアバイドスでなくてはいけない、さうすると「阿倍度」ではどうだらう。併し大概の人はアビドスと言ひ、夫れで立派に通用してゐるが、間違なことは明らかである。

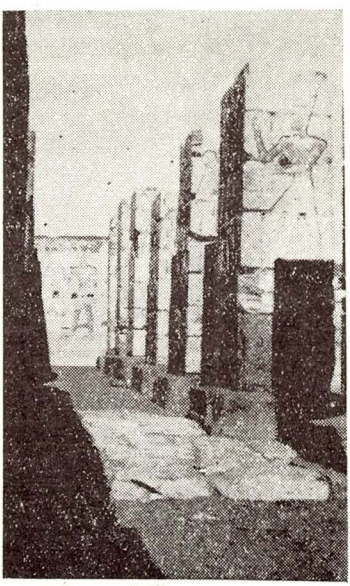
八時に木賃宿の玄關へ橫附にしたガタ馬車へ乘り、大きな音と砂煙をたてながら、六哩半を一直線にアラーベル・マドフーナ村（Arâbat el-Madfineh）に入りセトス一世堂の前に停つた、此處から

西北にかけて所謂阿倍度の廢墟で、此村から隣りのEl-Kherbeh村に及んでゐる。

私が當國へ來てから今日迄みたものは、回教寺院か寶形塔か、乃至横穴・窟墓の類のみで、未だ嘗て一度も出遇つた事がなかつた實物の殿堂に、初めてこゝでぶつかつたのであるが、惜しい事に一大特徴たる大門はいつの頃にか破壞されて了ひ何も殘つて居らぬのみならず、第一中庭も跡を留めず、漸く第二中庭の後半以下が助かつてゐる、だから馬車を降りて第一に見えるものは、正面入口前に行列せる方柱である。

此堂はセトス一世此を創め、ラムセス二世により完成せられたもので、一八五九年に總督がEd Pashaが施主となり、マリエットを發掘をしたのである、其壁は密理の石灰石より成り、柱其他必要な部分には幾分質の堅緻なのを用ひてある。

其平面が他の埃及大殿堂と著しく異なつてゐるのは注意すべきである。先づ普通此種の堂では内陣が一つであるのに、此れは七つあり。其天井は筒形穹窿をなしてゐる、併し眞の迫石を用ひたのでないのは言ふ迄もない。そして内陣の突き當りには何れもfalse doorが彫つてある、其壁面の彫刻に施せる色彩は、極めて鮮明に殘つてゐるのは驚く許りである。この七つの内陣には、向つて右より順にホーラス・アイシス・オサイリス・アモン・ハラクテ・プター及び此王を祭つてあつた。夫れから次に異つてゐるのは翼堂のある事で、本殿の向て左方に直角に各種の室や廣間や階段等がついてゐる。

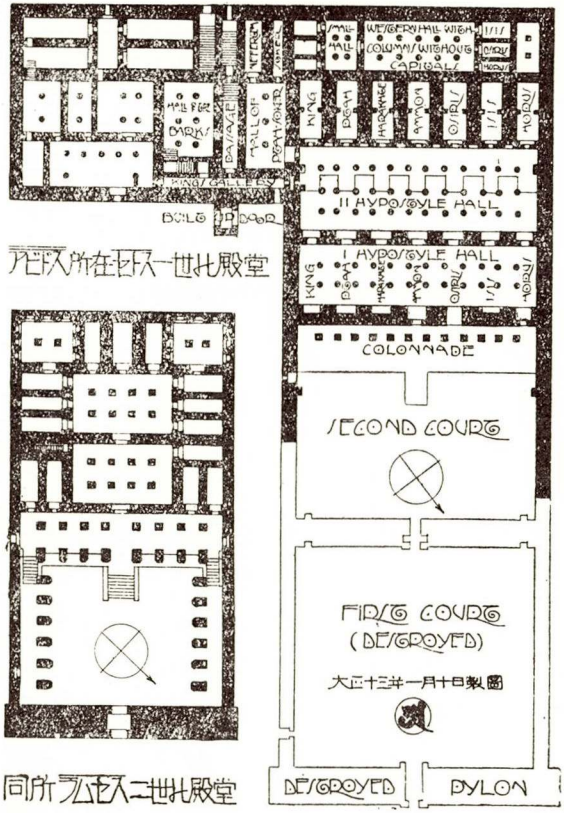


セトス一世堂
第二中庭正面の列柱一部

記し方が少々前後したが、第二中庭から第一列柱堂への入口は、當初は一つに一つづゝ合計七つ

あつたさうだが、ラムセス二世は中央の一つ丈けを殘して、他を全部締切にして了つたさうだ、故に現今は中央から出入をするのである、こゝを入り第一、第二の列柱堂を過ぎ左に曲つて石階を昇れば屋上へ出られる。少し足元にさへ注意すれば危險はないから、上へ昇つて壁上を歩き列柱堂に建てる太い柱の柱頭や、内陣上の構架式等を近くでみる事をお勸めする。

堂内に寫眞禁止の掲示は出てゐたが、私は公然と寫眞機を肩から下げて入つたのに、番人は知らぬ風をしてゐた、そして私一人勝手に奥の方へ行つたのに、番人は入口で案内人と話をしてゐて少しもついて來ぬ、だからいくらでも寫眞は撮り得るのである、つまり番人は故意に避けて旅行者をして希望に任せ勝手に寫眞をとらせ、後で心附にありつかうといふ寸法なのである事は明々白々である。夫れは分らぬとしても、撮影禁止の場所へ寫眞機をもつて入るのを制止せぬのは、先方が惡いのでこつちの知つた事ではない（？）。ほんとに寫して惡ければ、羅馬のサン・ピエトロ寺の如く、入口で機械をとりあげる可きである。先づこんな理窟をつけ、且つ掲示を見ぬと假定をして大分に寫した、成程泥棒にも



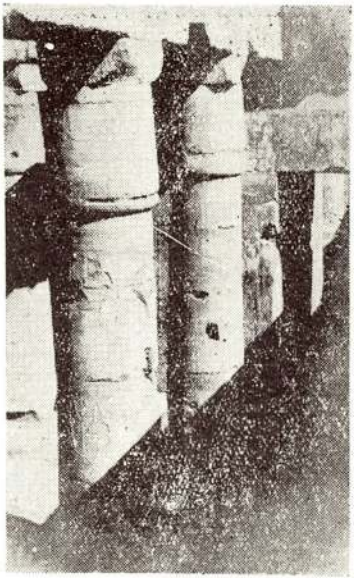

アビドス所在第一セチ世紀殿堂



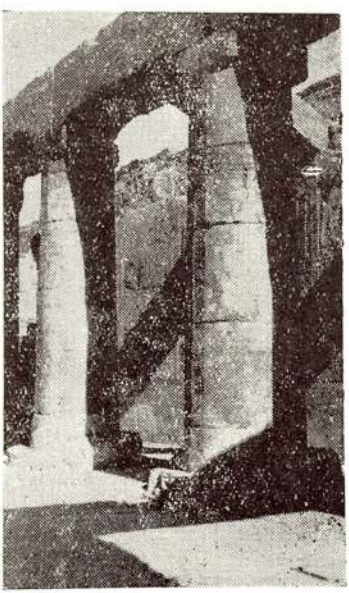
同所第二セチ世紀殿堂

三分の理窟があるといふのが正に明瞭に解つた、罪滅しのために寫眞を一つ二つ挿畵として置く。

堂内を巡つてゐる間に、何故か大變に喉が乾いて來たから、何か飲むものはないかときくと、珈琲ならあるといふ。埃及式珈琲は牧羊館でも何回も試みたが、餘りに濃くて甘くて毒々しくて、飲む度に際立つて頭が惡くなる樣な氣がする、いくら甘黨でも辟易せざるを得ぬ。だから珈琲はいやだといつた、それなら水はどうかといふ、什方がないから大概あたるまいと勝手に決めて命じたら早速硝子のコップに一杯持つて來た。みると薄赤い色をしてゐるから、赤砂糖を入れた砂糖水を持つて來るとは甚だ氣がきいてゐる、斯樣な田舍には白砂糖はないから、此以上は要求する方が無理である、何にしろ有難いと大に喜んでコップを握むなり、一いきに半分以上飲みほしてやつと氣がついた、砂糖どころの騷ぎではない、泥臭いので正にナイルの泥水を飲んだのである。



セトス一世堂第二列柱室の柱



セトス一世堂西堂の柱（象形文字を刻む爲め平たくせる部分に注意せよ）

此の泥水は埃及人には決してあたらぬさうであるが、日本人に安全といふ保證はついて居らぬ、萬一腸窒扶斯にでもなつたら大變である、常にさうとは限らぬが、飲料水から傳染する事が多いと

本にかいてある以上甚だ以て心配であるが、今更どうにもならぬけれども、これから出來る丈け汗を出して身體中の水分を全部蒸發せしめ、微菌を殺す事にしやうと思つて、今から阿倍度の廢墟全部、沙の漠漠たる中を頭から太陽に照りつけられて歩くと決めた。

そこで堂を出で、其後方に今から九年前に發掘したといふ Birth House をみ、其西北方に當つて位置せるラムセス二世の殿堂へ行つた、此は此王がオサイリスに奉献したもので、前世紀の初めに佛軍が埃及を占領した時迄は、殆んど昔しのまゝ立派に建つてゐたが、此時以降さん〴〵な目に遇はしてひどく壞はして了つた、だから今日では壁等漸く五六尺の高さに殘つてゐる丈けである、けれども壁面の彫刻に塗つた色彩は、未だ充分に殘つてゐるから、ゆつくり研究したら面白いであらう、併し中庭に立つてゐたオサイリスの像は胴から上を全部壞はされて了つたのは、洵に惜しいものである。

故に若し埃及が佛軍にさへ占領されなかつたなら、此堂も今日迄無事に殘つてゐたのであらう、先日もかいたが、兵隊さんに史蹟といふ觀念のないのは、世界各國共通だから止むを得ぬ。とはいふものゝ實は兵隊さん許りでもない。伊太利では Colosseum や Pantheon から石材をとつたり印度に於いても、英國が暴威を振ひ出した當時、土木技師が貴重な佛蹟を破壞して石をとりて道普請に用ひたりした、我國でも、大宮大寺址から礎石をとり、碎いて橿原神宮の礎に用ひた神職もゐたし、珍らしい刻文のある板碑を倒して内を凹形に刳りとり、田の畔へ伏せ



ラムセス二世堂に於けるオサイリス立像殘欠



部一の彫肉薄の壁側内室堂世二スセムラ

て樋にしたり、歌を刻みつけた奈良時代の板石を小川の橋に使つたりした例はいくらでもある。河内にあつた田邊伯孫墓と傳ふる偉大なる古墳は、十年許以前に完全に破壊されて了つたのである。だから此れも亦古今東西共通の事實で、致し方がなかつたのである。

此等の建物の詳細を記すと、徒に貴重な紙面を塞げる上、埃及建築史の講義になり、從つて書物の受賣になり、專門家でない以上少しも興味を惹かぬから、これ等は案内記や書物に讓り、總て省略しておく。夫れで私は、此堂からエル・クルベー村の西に隣れる古都廢墟の中にオサイリス堂の址を訪ふた。

古都の當初の規模がどの位あつたか知らぬが、今見えてゐるところは左程廣くはない。一體古への阿毘度は第十一、第十二王朝時代（今より約四千年前）に隆盛を極めたので、古來埃及第一王朝（今より約五千五百年前）の王Menesの都たりし阿倍度に擬せられたがMarietteの徹底的發掘の結果によると、此想像は大分怪しくなつたさうである。夫れ程潜心研究して初めて其位の事が判る位だから、其方面の智識の皆無な東洋の一旅客が、大急一過した位で何も判るも



部一の内堂世二スセムラ

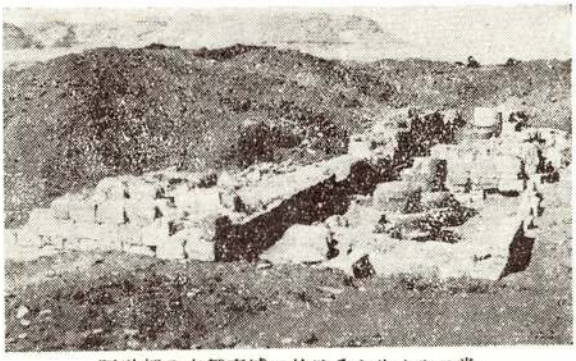
のではない、各所に露出してゐる泥土煉瓦の壁體の壞れをみて、たゞこんな所かと思つた丈けであつたが、此の一部凹地にあつたオサイリス堂は、殆んど全部破却され僅に基礎の一部位が殘つてゐる丈けであるけれども周圍が薄黒い色をした泥土煉瓦の破片と砂だから、堂礎の輪廓極めて明瞭で様子が一目に判つて大に都合がよかつた。



阿毘度の古都廢墟

更に此古都の東方にコプト僧庵（Coptic Convent）があるので此れに向つた、案内記には …. the convent scarcely repays a visit とあるが、そんな事には一切頓着なく出來たら一見するつもりであつた、何でも見度いのだから仕方がない。

ところが殆んど寺へ行きついてから當惑した事が一つ出來た、即ち金を少しも持つて來なかつたのであつた。夫れでもヘメダでも居ればよかつたが、あの男はラムセス二世堂迄ついて來て、夫れから先はそこ迄同じく一所に來たセトス一世堂の番人を連れて行つてくれといつた、勿論自分はずるける氣である。何度もかいた通り初めから彼は虫が好かぬから、私も丁度いゝ事にして宜しと許り番人を連れて歩き出



阿毘度の古都廢墟に於けるオサイリス堂

したのだ、だから今へメダは傍にゐない、故に金を立替させる事が出來ぬ、そこで番人に私は金を持たぬから、見せて貰つても坊さんに謝禮は出來ぬが、お前はいくらか持合はせはないかときいたら、男は夫れなら心配はいらぬ、遠來の珍客だから見てやれば坊さんは喜ぶので、金等の心配はいらぬといふ。埃及としては少し勝手が異ふが、コプト寺の住職はそんな鄙劣な考へは持つてゐぬのかと半信半疑で寺の前に立つてゐたら、やがて男は坊さんを呼んで來た、みると一寸風采がよかつたので先づ安心をした。此坊さん頗る氣持よく堂内を案内してくれたが、成程大したものではなかつた。歸りに入口のところが一寸面白かつたので寫眞を撮らうと思つたらば、坊さんは自分も一所に寫して貰ひ度いといふので、序に番人の男も並べて寫した。挿畫にあるのが夫れで、向て左方の白衣が住職である。私は後で謝禮が出來ぬから、寫眞がうまく出來てゐたら、開路へ歸つてから送るから、名と番地をかいてくれといつて紙片を出したら、暴筆文字で認めたから、讀んでくれといつたら讀んだがよく聞きとれぬ、いづれ後に誰かに訊かうと思ひながら、つい折がなく心ならずも違約をして了つた、この寫眞をみる度びに坊さんに申譯のない樣な氣がしてならぬ。

コプト僧庵の東南方、前に記した古都の西南方に、二重の煉瓦壁で圍まれた一の廢墟がある、これをシユーチット・ザ・ビッブ（Shûnet ez-Zebib、Shûnat az-Zabîb）といふ。壁の壞れから自由に這入れる。ベデカによると、It has been supposed to be an ancient fortress, but is more probably a tomb. とある、さうかと思ふより他に仕方のない代物であつた。

夫れから古帝國時代の墓地を通りぬけて元のセトス一世堂へ歸つて來たが、入口に近づくと雷の如き聲がきこえる、左程大きくはないのだらうが、今を距る事三千二百年前に出來た大殿堂の第一柱堂内に反響して、大音をたてゝゐるのであつた、何ぼ何でも怪しからぬ、あく迄人を馬鹿にした仕打と大に憤慨し、大きな聲を出して怒鳴りつけたら、流石の彼も直に飛び起きて何とか頻りに

申譯をしてゐた。

今歩いたところは全部で約二里半ある、お蔭で先刻のナイルの泥水は勿論、身體中の水分悉く蒸發して了つた、今度は水や珈琲以外の飲料はないかといつたら、ラムネならあると言ふ、ラムネはちとあぶないが、瓶を逆にしてみても大して澱みもなし、水よりはよささうだから早速二本たてつゞけに平げた、大概腸窒扶斯は大丈夫だらう。

小憩の後、も一度堂内を巡り扨て歸らうとしたら、番人はまだ他に見せるものがあるといふ、何だか知らぬがついて行つたら、附近のとある土人の家へ連れ込んだ、やがて主人は首飾やスカラッブやいろいろの古物を持ち出して私の前へ並べたが、眞僞を鑑定する能力もなし、又努力もせず頗る冷靜に構へてゐると、案内人は此家の品は眞正で安價だから買はぬかといつた、そこで私は、高い金を出してこんな物を一つ二つ買つて夫れが何になる、こんな物を買ふ金があるなら Khartum 迄行つてみるのだ、と言つて横を向いて了つた、到底駄目とあきらめて案内人は歸るかときいた、時に一時。丁度此家で三十分つぶしたけれども、着した時が九時半で、夫れから午後〇時半迄正味三時間あつたから、この間に阿倍度の簡易速成科を目出度卒業して了つた。

歸りの馬車の中で、今夕七時發の汽車でケナ（Keneh, Kena）へ向ふ豫定を變更して明朝六時の汽車とし、張玲へもう一泊と決め午後休養してはどうか、とヘメダが發案をしたから、私はこの案に賛成をして泊る事にした。歸宿をしたのが二時半で晝食を了つたのが三時十五分であつた。

宿の前は巾三四間位の道路があり、其次はナイル河になつてゐる、そして河に沿ひて納涼臺が張出して設けてあるが、此れは此宿の所有と見えて村の衆が來て涼みながらヘボ將棊をさす事、我國と同じである。さうすると宿の店頭に並べてある酒や煙草の類が賣れる。さうでもしないと、こんな田舎の木賃宿へは季節以外には余り客はあるまいから、宿屋業丈けではやつて行けまい。亭主は希臘人で六十五六歳なるべく、此所に宿屋を開業

してから四十年になるさうで、能く談じ能く笑ふ痩せてゐるが一癖ありさうな面魂だ、併しヘメダとは比較にならぬ、彼は幾度となく季節毎に客を引ずり込むと見えて、此亭主と大分に親しいらしい、互に胸襟を開いて儲口の相談をしてゐる様であつたが、暴夜話だから珍紛漢でこれは保證の限りではない。

午後此納涼臺の騒々しさはお話にならぬ、リップにある Kings Head Inn の前に村の衆が集つて喋つてゐるところは Arthur Rackham の上手な挿繪にあるが、繪でも可なり騒々しさうである。歐米の片田舎の宿屋の前は今でもかうかどうか知らぬが、我國の田舎宿の夕暮は隨分賑かである。丁度これと同じ現象に、埃及國張玲村の木賃宿の前で出遇つたのだから面白い。

暮れ方になつて不圖氣がついて蚊帳を檢査したら、大孔が四つ五つあいてゐた。昨夜痒くて困つたのは全く此孔から蚊が入つて來たに違ない、そこで豫てから荷物の一隅に入れておいた針と糸とを取り出して、早速孔綴に取りかゝつた、ところが蚊帳が古くて性がないから、一通り綴るのに一時間余りかゝつた。



入口

廣間にかけてあつた舊式反射鏡附三分心の石油燈を自分で取つて來て點火したので漸く明るくなつた、もう一晩の辛棒で、明晩は Luxor Hotel だから最早こんな事はあるまい。

愈よ暗くなつても燈火をもつて來ぬ、六時半迄寢臺に轉がつてゐたが果てしがないので

宿がこんな風だから、こつちも其積りで大略式ですます、晝食の時は半袖の縮の肌着とズボンでやつつけた、而も此肌着たるや去大正二年に大枚

九十錢で買得したもので二三個所膏藥が貼つてある歷史的の品である此肌着をきて阿毘度の見學を了り、宿ではむき出しで晝食をしたのだから大に記念になる、而も晝食は例により廣間で食べたので、此室も晝間觀察すると隨所膏藥だから丁度よく似合つてゐた、其上番頭兼給仕はスミルナ生れださうで、子供の時水頭症を病つたと見え、特別の大頭で脊は低い、だから小亞細亞製の福助である。こゝは元の土耳其領で、希臘に取られたり土耳其に取返されたりした揚句の果に燒かれたり、いろいろなめに遇つた變挺な所だ、其變挺な所に生れ親兄弟に別れ、張玲迄流れて來て、木賃宿の雇人になつてゐるといふ頗るお芽出度い景物附だから甚だ以て振つてゐる。

夕食後ヘメダは三度談判を持ち込んだが、今日はとう〳〵引導を渡して了つた、彼はルクソル迄行くつもりで要意をして來たのに殘念だと言つたどうも初めから四日間にしては鞄が大き過ると思つた。

九時半床へ入つたが、表は中々やかましくて眠られぬ、漸くつかれて一寢入したと思つたら、往來で人の罵り合ふ聲でまた眼がさめた、その瞬間"Suppose you are drowning in the sea, any one"……と丈け確かにきこえたが、ワンからあとは何やら判らなかつた、それから暫く二人以上の人物が何か言ひあつてゐたが、遂に大きな音をたてゝ案內人を供に連れた客が二階へ上つて來て、どこかの室へ入つて市は榮えたが、此客は夜半宿屋の前で馬車の別當か荷持かに大分ゆすられたらしい晝間でもさうだが、まして夜間十二時近くでは、此邊は全くの無警察である、こんな時には宿の主人は必ず寢たふりをしてゐるので役になどたゝぬだからこんなに晩く着くのが惡いのであるといふより仕方がない。（大正十三年二月十一日稿了）

前號正誤表

| 頁 | 段の行 | 誤 | 正 |
|---|---|---|---|
| 六〇 | 上の三 | 字はいくらもある | 字はいらなくなる |
| 六五 | 下の六 | 運び | 運ひ |

第五十九頁上段插畫の說明に「……墓內部」とあるは「……外部」の誤り。



# 漫錄

## Mの言草

偏心圓

或る

……人達が考へてゐるやうに、私は人生そのものを「さすらひの旅」と浪曼的（ローマンチック）な言葉を以て言ひ表はしたくなく、さりとて「一寸先は闇の夜」と現實享樂を讃美する氣にもならない。

と言つて私はまだ「人生とは……？」の問に答へる適當な何ものをも持つてはゐない。けれど私は、たとへそれが極めてフエーイントな姿であらうとも、辿りゆくべき徑を求めむと惱む裏の希を聞くことが出來ます。惱みのある處に藝術が花を開き、哲學が訪れ、美しい文化が生れるのではありますまいか。私にはそれが尊い信條となつてゐます。絕え果てむとする心の惱みを凝視しつゝ未だその何處へゆくべきやを模索する私は、折にふれ湧き溢れる感情、思ひ、願ひ、を書きつらね其處から私自身が何者であるかを見やうと企てゝ此文集を組立てるのです。偏心圓といふ意が、どういふ關連から私に仇名されたかは自分には判然してゐません。果して私が其エクセントリックであるか否かは以下の文を通してのみ答へられると思はれますが、其れはまだまだ先きの問題です

偏心圓

どうして

『……俺は斯うなんだらう……』自分でさへ愛想がつきるほど、私は倦怠な生活を平氣で送つて、ゐた。到底他人では耐え得ないやうに思はれる過去の單調を極めた生活を、てんで苦痛とも思はなかつた所に、私の厭人的な性癖が表はれたのかもしれない。考へて見ると其時分の私の同情、興味、情操をそそつたものは殆ど非人情的な自然ばかりだつた。此の點で私はその時分の生活が可成り幸福であつたと思つてゐる。社會のアクセクする生活の大部分を愚昧なものと邪惡なものと思つて自然の靜けさの中から永遠に屬するものを永く感じてゐたい欲求が私を導いてゐたからであつた。今に於ても私の希求する心の方向が現代に屬すると云ふよりも、それらを一切忘れてしまつた處に立つてみたいのです。そこで、私は如何しても人情の世に即かなければならない必然と、靜けさにみる永遠の姿に參したい心の切な希ひとの激しい爭に煩はされる。そして其の爭ひが又巧妙にともすると私を暗黑の森に追ひやらうとする危險分子を作りあげる。だから此頃の私は其の分子とも戰はなければならないことになつたのです。

## わたくしは

……只獨りゆく野山や郊外の散歩に、生來の清純な心持が發溯として來るのを感じる。展かれた風景の凡てが私には互ひに何かを囁きあつてゐるやうに見える。粗末な文化住宅等が一軒も見當らない大和や河内の原は、私の一番好きな景色である。何を靜に語り合つてゐるのだらう。私はジツと耳を倚て聽く。いいえ、彼等がどうして語り合つてゐると言へよう。神社の森の柔かな輪廓にも、優しく流れるお寺の屋根の線にも、素朴な農家の姿にも、私はたゞ光明遍照を希ふ敬虔な祈りの聲より外に何も聽き得ない。それだのに、偏狹な意志を主張し歡樂に狂喜する不具の文化が、早晩その暴虐をこゝに企てるのかと思ふと、慴伏して只管に神を祈る可憐な此姿をどうして打捨てゝ置くことが出來やう。彼等を助けて最後まで戰つてやりたい氣持が急に私を緊張させる。

## あるとき

……突然蒼空から『御前は馬鹿だなァ』と嘲笑する聲があつた。『一体御前は何を今迄に知つて來たのだ。御前には御前が見た凡てのものが御前の姿にほかならないと言ふことを良く知つてゐる筈だ。それだのに其の態はなんだい。あれは人ではないんだぞ。しつかりしろやい』

威かされて眼を見張つた其男はやつとのことで活躍してゐる人と見たそれが、人形であつたことを知ることが出來たけれど、惜しいことにその男は世なれないキユンスレルだつた。竟に其人形に仕掛けられてある發條を見出すことが出來なかつたし。まして其發條を卷く力が他にあることなどには氣付かなかつた。まもなく聲が再び聲えて來た。

『でも御前は其素直な正直な心を正しく養つてゆけばよい。御前には御前の全生活を潤す感激が大切だ。前へ進むことを急ぐな。人の世に何が隱されてあるかは御前に與へる問題ではない。妥協をするな。そして大きく深く迷ふ人となれ。御前の姿はそこに輝くのだ』

さよふけて戸の末こす浦風に
あれはれうちそふ波の音かな

# 復興他話糊塗

工學士　本多二郎

**震災と「スタイル」……**　東京市の復興も隨分複雜な狀態に成つて一方政治問題の大道具に使はれ、一方では慾に眼の無い連中の煮汁に晒まれるでとんと如何な復興振りに出來るやら見當が付かない。

併し幸か不幸か今こそ建築家に取つては緊褌一番大に奮起しなくてはならぬ秋に違ひない。殊に『バラック』建築以外を許さぬ昨今は特に建築家の手腕を練磨する好機會であらう。何故と云ふに責任ある永久の建物に對して如何に大膽な建築家と雖も思ひ切り自由な、そして思ひ切り藝術味のある樣式を色々と試みる事は不可能に違ひない。樣式に於て責任の薄い『バラック』建築は上述の理由に於て正に天の與へた試金石と考へてよからう。隱れたる建築の大天才の出現と同時に彼の悲慘を極めた大震火災を紀念すべき劃期的震災『スタイル』の創始せられる事は一に此非常時に處す建築家の努力と奮鬪とに俟つものであり亦必ず斯く有り得る事と信ずる。

猶復興『スタイル』に於ては更に眞劍な覺悟と研究を望ましい。あれ丈けの試練を經て、あれ丈けの材料を供給されて猶且依然たりでは建築家の無爲を自ら吹聽する樣なもので自己の職責に對しても恥ぢ入らねばなるまい。

實際に於て昨年の震災程の建物に對する災害を味つた事は未だ嘗て世界中に見られず建築物及建築家に取つては、此上なき貴重な研究材料を無數に提供せられた筈だ。全く建築界に對する大地震だ。寢ころんでも居られまい、眠つても居られない。況して成金の夢なぞ見てる連中は正に被服廠送りだ。

**「セメント」を官營……**　近來『セメント』が安く成つた安くなつたと喜んで居る人が居る。安いものが安く成

つても別に喜ぶ事はない筈だ等と考へる。

一體『セメント』は人間の衣食住の米の様なもので、又米と匹敵し得る程の物資ではないかと思はれる。殊に今後愈々其需要を增加する事は何人も想像し得る事で、極端に云へば今日と云へど建築業者は『セメント』無しでは一日も暮せないとも云へる程である。將來は國民全體の住に關する必需品として『セメント』は愈々其價値を高めるに違ひない。

斯様な大切な物資を單に營利會社に任せ、競爭は在るとて云ひ乍ら、云はゞ御都合次第で如何様にもなるとて云つた風では將來誠に寒心に堪えないと思はれる。猶且『セメント』規格試驗なるものは實際には餘りに迂遠過ぎ殆ど無きに優る位では眞實の話心細い次第だ。

過去は先づ各製造所の信用で使はれて來た。併し將來も此信用が無限に續くかは心元ない。何時如何な眼に會うかも知れない。いや將來處ではない。過日の震災でも己に過大な信用に災されて居る建物が案外多いかも知れない。

そこで一つ『セメント』國營を考へて見た。政府が責任を負つて出來る丈け安く『セメント』を供給する事にしたら隨分安く、そして良品が出來想に思はれる。

そして品薄の場合は國力を以て產率を高めたなら決して有り得べからざる價格には達し得ないに違いない。殊に復興に使用する場合を見越した粗製品を考へると國營の必要を感じさせられる。併しこれも不味いものを高く賣る式の專賣では何にもならない。不良なものを高價で與へられたんでは堪るまい。

**建築審査院の設置**……東京横濱の復興が若し豫想通り急速に活潑に出來るものとしたら、隨分妙な事に成りはすまいか。建築家資格規定のない悲しさに必ずしも高級な建築が優れた建築家に取扱はれる譯にいかないだらう。

其結果として復興が速かなれば速かなる程前の患ひが多くなる譯で、建物の樣式計りでなく強度の點に於ても幾多の寒心すべき點を生みはすまいか。之は實際問題として可成有り得べき事柄で、

既に震災に際してもそれなき爲に苦き經驗を得た建築主が隨分有るらしい所に見ても、單に建築家から計りで無く國家經濟から見ても一つの大きな問題で有らうと思はれる。

之を改善する策として、先建築審査院とも稱すべき監督機關を設けて實施さるゝ建物に對して可成嚴重な程度に調査し、改訂を命令し得る權能を與へるとする。勿論現存する監督機關の調査程度に止らずより以上の權威ある機關となし建物の構造樣式等の改訂は建築の大家數名によつて最後の命令を決定する事としたならば自然建築家資格の階梯を付け得られる事ともなり、亦一面帝都復興に際して餘り極端な樣式或は不安な建築を除く事が出來はしないかと考へる。

此問題は幾多の困難を伴ふであらうし、亦多少の弊害も伴ふに違ひない。けれど事急を要する場合であれば止むを得ない方法だらう。現在或地方で行はれて居る資格規定では未だ未だ充分とは考へられないし假令同樣な規定にした處が眞に意義ある帝都を復興せしめ樣とするには猶充分な監督を必要とするだらう。

**防空建築……研究**　過般の大災害に際して或人は航空軍の襲來に際會すればより以上の慘害を受けるだらうと警告して居る。又或刊行物で見ると飛行機の爆破は左程恐るゝに足りないと說いてある。

勿論專門家でない我々は何れが眞實なのか判斷のつけ樣がない。併し只漠と想像して見るに上二說何れも眞實に違ひない。現在の殊にいざ空軍襲來と云ふ場合に逃げるべき地下室も無く坑道もない都市の叫喚と動きとは昨年の比では無いに違ひない。

又一方建物丈けに就て考へれば相當の材料と構造を持つた建物が爆彈の一つ二つ見舞はれた處が地震に搖られた場合の樣に全壞する程の事は有り得ない木造にした處が二三軒の家が一彈に對して犧牲になる程度であるから夫程の事は無いとも考へれば考へられる。

斯の問題は全く建築家に取つては未知未聞の問題で相當の研究を必要とする事であらう。或は專門家に質せば此疑問も氷解し得る丈けの研究が出

來て居るかも知れない。出來て居るなれば一日も早く之を知り度いものだ。

萬一研究を必要とするならば、今が最も適切な時期であらう。必要とあれば都市の相當の面積を鐵筋混凝土建築とし地下室を一層なり二層設け最上層を防空層として適當な設備をなし得る設計として置けば誠に安心が出來ると云ふものだ。

誰か十九世紀の倫敦人の内に百年内に頭上から爆彈の御見舞を受ける事を豫想し得たと斷言出來よう。況して某地より二千臺の飛行機襲來の可能性無しと云ふ事が斷言出來るだらうか。

淺みどりすみ渡りたる大空の

ひろきを己がこゝろとも哉

# 建築の創造的理想

水町與志雄

藝術の眞の高い理想はその個性の創造的理想にのみある。今こゝに言はうとする個性とは、個性以外のなにものかと安易に對立され得べき個性の謂ではなく、狹い比較と批判との線を遠く駈け越えた絶對の存有としての個性の謂である。絶對の存有としての個性は、常識として豫測さるゝが如き對峙されたる衆性なるものを有たぬ。かゝる意味の個性は、勿論、衆性への相對的存有ではあらぬ。個性は、些の疑ひもなく、絶對である。個性はその本性として全らゆる他の個性ならざるものゝ障碍を容易に破り棄てる。規範や類型は、本來言へば、自存する個性には近いものではない。階級や類別は、決して、自由なる個性の恣に安んじて永生すべき故郷ではあらぬ。個性は全らゆる定義を厭ふ。個性を捕え得べき桎梏はなく、つゝみかくさう容器もない。言ひ得べくんば、個性は赤裸々自體である。絶對經驗なる自律そのものである。類似は個性を輕蔑する口實になり易いであらう。ミケランジエロのドオムの美に醉うて、同じドオムを今一箇作りあげやうとの努力は、多分、初めから無駄であらう。ドオムを眞似て卑しく成功することは、ドオムを眞似すに正しく失敗することより醜い。個性は無下に奪はれることに依つてその生命を失はず、他の個性を卑しく奪ふことに依つて自らの個性を殺す。個性は厭くまで誇り高く自尊自重する。個性は犯すべからざる高貴さに住む。而も、個性とは、決して單に狹量なる油斷の謂でもなく、特に私有されたる小さい自我の謂でもあらぬ。絶對とは特種の謂ではない。個性は絶對に住み、特種を拒む。個性は特權に傲つた自我ではなく、素直なる本然である。本然は生き生長する。從つて、個性は生き、生長する。個性

とは、畢竟、生れつゝある本然の存有そのものゝ謂である。

藝術とは、一言で言つて、個性の創造の情意である。永劫と離れて個性の創造はない。個性は永劫と確く宿命的に握手をする。個性は各々限りなく永劫の世界に酷く憧れて、極りない充實と生長とを得やうと勞して汗を流す。個性は文字通りに充ち溢れることに依つてのみ僅かに滿足する。從つて個性は何よりも創造に激しく戀着し、創造の世界にのみ住まうと祈求する。個性は創造の樂土に樂しく自由に生きてその香り高い雰圍氣に醉ふ個性から創造を奪ひ去ることは必ず私達にも能きないであらう。個性は文字通り徹頭徹尾創造の世界に激しく執着する。創造とは個性の愛撫して止まない慣用語である。暗らく蒼い束縛と因襲とは多分明るく快活な個性の激しい怒りを購ふのみであらう。而も、個性は決して誤解され勝ちな如うに醜く頑迷でもなく、卑しく驕慢でもあらぬ。個性は個性のまゝとして高く存有する。個性は自然に深く嚴丈な根を下ろし、高く堂々と自然から生長する。些の躊躇もなく、個性は不死の王冠を自らの頭上に置き、自らを帝王者として尊重し、又信賴し愛撫する。藝術は個性ををいて出發する他の如何なる出發をも發見することが能きないであらう。全らゆる生長は、疑ひもなく、個性から生長する。全らゆる藝術は、例外もなく、その所謂狹小卑劣な派なるもの主義なるものから恣に自由へ出發せずして、健やかなる生長への道を樂しんで濶歩することは能きぬ。所謂派なるものや主義なるものは、好意を有つて解したとしても、畢竟單に約束され制限されたる狹く、淺い手段か過程かの謂であつて、深い藝術の眞諦に親しく交涉し得べきものではないであらう。藝術にとつて所謂派なるものや主義なるものは、極言すれば、常に藝術の墮落でしかありはしなかつたものである。全らゆる形式は生命を無下に氷のやうに固たく冷たくする。藝術は、勿論、組成でもなく聯合でもなく、或は差別でもなく對立でもある筈がない。藝術は一見美はしい造花であるより、一本々々生きて花咲く露骨な野の花でなければならぬ　藝術

は印刷物のやうなものではない。藝術に商品見本は必要ではない。大量生産には、多分、尊重さるべき偉大なる個性の藝術はあらぬであらう。

藝術は、勿論、單に或るものゝ表現に始り、又その表現に絡るものではない。表現の絢爛のみがそのまゝ藝術の本領ではあらぬ。藝術は外部の表現を無視度外視しても、その絶對存有の重い理由を危ふくする筈がない。廣く一般に承認さるゝ如うに、内容は即ち其まゝその表現である筈であるが、この本來の意味は、個々の内容にはその内容に對峙さるべき個々の表現し存有が期待さることの謂ではなく、その内容の存有そのものが、即座に、その不難なる表現そのものであるとの謂である。内容を離れて表現の存有しやう筈はない。藝術は表現の奴隷でもなく、表現の暴主でもあらぬ藝術はその基調の一切を自らのうちに深く置く。藝術は、疑ひもなく、成るものゝ象徴であり暗示であるとされてゐるが、單なる象徴が、單なる暗示がそのまゝすぐ藝術ではある筈がない。藝術は強ゐて示唆されたる深い内容の具象表白でもない藝術は内容と表現との相對の世界からは遁れる。藝術は選ばれたるその標準はあらぬ。藝術は藝術自らの個性に最後まで執念く即し、その自らの翼の力を確信して高く飛揚する。藝術は藝術ならざる一切から遠く離脱する　藝術とは、約言すれば絶對の獨立存有自躰の謂でなければならぬ。藝術の展開とは外へ派手やかなる流動の謂ではなく、それ自らのうちへの深く隱れたる沈潜の謂である外への展開は藝術の退轉でしかない。藝術表現とは、言を得べくんば、この藝術の絶對存有の實に刹那即現の謂である　表現されざる表現は、常に最も優れたる表現である。

藝術は、又、常に思惟される如うに、發見そのものではない。發見の名譽に矯誇し、發見の稀らしさに感激し亂されたるには、藝術はあまりに聰明で、あまりに鈍重すぎる發見のための發見は、決して、藝術本來の企圖ではあらぬ。藝術には何等かの目標も必要ではない。本然の藝術は、嚴密に言へば、人生のための藝術でもなく、勿論、藝術のための藝術でもある筈がない。優れてよき藝

術とは、誤解され勝ちなやうに、道徳的によき教訓の盛りあげられたる藝術との謂であつてはならぬ。藝術の藝術たる所以は、その全らゆる性質に斷定とから厭くまで自由であり、その範疇を作らないところにある。藝術に系統はない。藝術は獨存する。萬一藝術の獨存が孤立としての危惧杞憂を意味するとすれば、茲に呼ばれたる藝術は、多分、本然の藝術ではないであらう。藝術は他に認證を求めて、自らを騒がしく評價し宣傳はしない藝術は第二者に媚びやうための卑しい饒舌は有たぬ。第二者の觀賞の如何は、恐らく、藝術には何等の交渉をも有たないであらう。藝術はその高く評價されると否とに關はらず、その自らの生命一杯に充分生存する。藝術は永しとの寓意は、優れたる藝術の時間的長期の賞讃を意味するのでは決してなく、藝術本然の生命が絶時間的に永いとの謂であつて、愛撫賞揚さるゝと無視拒非さるゝとは、こゝに論義さるべき重大なる題目ではないであらう。批評家の批拒罵殺も、藝術家にとつてはその死活問題であるとしても、藝術そのものにとつては何等の痛痒もないのである。藝術の要素は決して、意志でもなく情感でもない。眞の藝術は情に溺れて自墮落に走らず、知に偏して冷酷にも住まぬ。藝術は、或は又、知と情との調帶均衡から其完成の道へ出發するものではなく、それらの性狀の沒却痲痺から出發すべきものでもあらぬ藝術は意志と情感とを遙に越えて出發する。知意と情操との區劃を藝術の懐に探ぐる業は、多分、失敗に終るであらう。所謂高い藝術的情操とは、その藝術歡讃者の胸底に映し出されたる情操の謂ではなく、其藝術本來の自立約情操の謂である。

藝術の創造は、從つて、豫め計畫され企圖さるべきものではなく、むしろ偶まため自ら生れるべくして生れ出づべきものである。創造とは、生むの謂である。私達が藝術を生むとは、藝術が自ら私達を押して生れ出づるとの謂である。藝術とは私達の純一なる絶對の創造的行爲の謂であつて、決して、竊盜的なる犯罪行爲ではない。藝術の創造とは藝術の文字通りそのまゝこの所謂製作の謂ではない。藝術の創造は組み合はせではなく、刻

り當てゞある努力ではなく、創見である。如何に優れたる藝術家も、藝術の本然を無視して、藝術本來の熱と血の運行を恣に左右する事は能きぬ如何に選ばれたる藝術家も、藝術を自由に三倍にし或は二分し得る程、不思議な妖藝者となる事は能きぬ。藝術を倍加し或は削減する事が、勿論高い藝術を創造する所以ではあらぬ。藝術は所謂絶對相對の二つの局限の世界を高く越えた字義通りの絶對の世界にのみ、その不變の輝やかしい存有をつゞける。疑ひもなく、藝術はその香り高く熱激なる魅力に依つて、忽ち卑しい追從者と摸倣者との多數を呼ぶものであるが、藝術の模字は單なる藝術の形骸の保存であつて、その血と肉との表現ではあらぬ。虚僞に近い藝術の寫眞は藝術の價値を奪ふことは能きぬ。藝術に等躰の二物はある筈がない。陰影はその本躰とは明かに別種のものである。實に過多なる藝術の模倣は優れた藝術の摸寫復製なる名に依つて、確に恣に白日の下に横行しつゝある。而も、藝術はその幟を高く揚げてその本然の姿を明らかに示す。藝術の本躰は明かに知覺され得べきものではなく、唯感じ、唯愛さるべきものである。優れたる藝術家とは、故に、藝術の知解の術に優れた多くの躰驗を得たる人々の謂ではなく、自らの一切の低い我から文字通りに自由になり、直ぐそのまゝの藝術の本然の姿のうちにとび込みそれに融合するものゝ謂である。理解は愛の先頭に進むことは能きぬ。藝術への理解は藝術への愛と同意義である。藝術の創造的理想は高い星の上にはなく、足下の愛と理解とのうちにある。理想へのかゝる意味での出發は、今即座に容易く初められるであらう。

藝術の創造的理想は、故に、その所謂藝術の内容と表現との、唯一不二の相即的なる藝術本然の姿の絶對表現の完成にある。約言すれば、所謂内容と表現との亂れと歪みとを、そのあるべき本然の位置に置き正し置き代える謂である。本然の藝術は、決して、所謂表現の示唆的なる衣裳に顯示し、又内容の懐に深く隱れ住む要はあらぬ。藝術を表現と呼び、或は内容を峻別してはならぬ。内容と表現とは、決して、遠く相離れて並行すべき

ものではなく、主と従とでもなく、表裏でもなく勿論、又妥協の故に妥協し握手し合ふべきものでもなく、倶に一度びは解躰されて、新しくその本然なる藝術の故郷へ歸つてゆく要があるであらう内容はそのまゝ表現であり、表現は又内容であり倶にそのいづれでもあらぬであらう。藝術はその所謂表現なる形樣を有たずして、又その所謂内容なる局限に住まずして、確にその絶對存有としての生長を遂げるであらう。表現に對峙されたる内容は、對他の世界を絶した藝術の深い本然の内容とは同種のものではない。内容の後に藝術はなく表現の前にも藝術はない。藝術とは内容以上の内容であり、表現以上の表現の謂である。從つて、藝術の創造的理想は、所謂内容と表現との深い間隙を躊躇なく埋めることのみによつて達し得ず、表現をその本然の表現の姿にかへし、内容をその本然の内容の姿にかへすことに依つて、僅かにその完成への最初の出發を初める。理想はその理想への單なる感激と昂奮とにのみ依つて達し得られず、その理想圏内への無條件融和合一に依つてのみ達し得られる。手段化されたる意志も、情感も決して、理想への選ばれたる道ではない。理想はその理想に漸進的に近づくことに依つて達し得ず、理想世界に生死し安住することによつてのみ達し得られる。創造は本然から出發する。藝術の創造的理想は、從つて、藝術の本然そのものゝうちにのみ達し得られるのであらう。本然は創造である。創造はそのまゝ藝術である。

人生は創造なり

# 建築叙情篇（二）

廣岡峰太郎

## 三　美の墻壁

私は寂しい風景の前に心を惹かれてから、久しい時が經た。或はいつまでも、この眼前の寂しい風景に倦くことを知らないで、凝視して居るかも知れない。私の心はこの眼前の風景の何物に惹かるゝのか知らないで居る。私はたゞ〳〵寂しい風景の前に佇んで居る。

こゝには、慌しい巷の喧騒も聞えない、煤煙にうす汚れた灰色の雲さへ見付からない。

こゝは、黄昏れの山村である。

私の前には、古い〳〵土塀を圍らした屋敷趾がある。隨分久しい以前にこの土塀は造られたのであらう。

壊れる丈け壊れ、崩れる丈け崩れ果てたかの様なこの土塀の持つ美に、私の心は惹かれる。

土塀を構築する土壌の持つ色潤、陰影の美は、私の胸に衝く。

屋敷趾の地面には、風に戰ぐ力もなきがの、枯草の秀に、そこはかとなく漾ふ夕べの光を宿し、土塀より道の邊に枝を張る八ツ手は、花さへ咲き出て私の哀愁をそゝる。一樹あり。橙實る。夕なれば數多なる雀の、この一樹を出入りなし日は全く暮れ果てゝ熄む。日は全く暮れ果てたれば、山の端より出る月は明るい。晝さへ閑かなこゝは夜に入つては、いよ〳〵寂しい。山村の一劃、夜の土塀の端嚴さ。

それは大地を抜くこと、亭々たる樹木の持つ根強さである。自然と人工の融合である。

永い〳〵年月の超技巧であるこの土塀は、外界

よりの侵入を防ぐために、構築されたものでなくなつて見える。

之は自然の、大地の縁取りである。自然を冒瀆しない人工である。

月が戻るとこの土塀も愈々くろづんで見える。ぼろ〳〵になつた、土壌の持つ陰影の中の陰影。壊れた物のみの持つ美感。壊れた物、古きものが持つ美が、歪であると誰れが言ひ得よう。

自然への人工の反逆、闘争の半面には、哀しきまでに、自然と人工の、愛の握手があることを思はせられるとき私は涙ぐましくなる。私の頭は自然に下る。私はたゞいたづらに古きものゝみを趁ふ者ではない。私は例へて言へば、コンクリート煉瓦、石材、テラコッタ、其他、何、何、何、科學の進歩發達の齎す斬新なる、各種建築材料に依りて、構築さるゝ墻壁を許容する。乍然、或は之が私の、妄想であるかも知らないが、多種多様なる材料の持つ美的要素を、生かしきることを考へねばならぬ。セメント、煉瓦、石材、其他、何、何。何の持つ色彩、乃至情調、感觸は卑下すべきではない。

材料綜合(?)の如何による。設計環境の如何による。(勿論完全なる設計とは、凡ゆる意味に於ても、完全なる設計であらねばならぬが)

夜は愈々更けた。歩を移すにこゝには又、何といふ素撲、簡素な籬であることか?

こゝは茶の木の籬である。觸れると痛さうに、白々と茶の花が咲いてゐる。私はいつか知らず、他家の庭の中に佇んで居る。それ程、こゝには外界との接觸を恐れない。

山村の平和なる、一家の人々の眠れる、微かな鮮さへ聞えさうである。月が冴えて愈々明るくなると、おびたゞしく咲き盛る清かな茶の花が私を夢遊病者の様にしてしまふ。

私はある時は、春淺い太陽が眩しい程に、水の上に照り返す河縁を歩いて行く。思はぬに燒板の塀、低く廻らせる中より、桃の花一枝咲き溢れるを見る。或は御影石の墻壁に嵌められたる青銅の欄間より見透せば、チューリップ咲ける庭を見る又或時は、舊都の郊外一帯を漫歩する。忍び垣の

ついた船板塀、さては棕梠繩にて結へし、竹垣もよしい新たなる杉皮を女竹もて押へとなしたる塀もよし、神社佛閣の、墻壁に心を惹かるゝこと前述土塀に、餘り多くを言へばこゝには言はず、物寂びたるこゝは又茶がかりたる、丈にも餘る椿にて塀に代へたるを見ては、花の咲き盛るを思ふはしたなさはたゞに私一人では無からうと思ふ。

私は又遠く支那朝鮮本土、奥地に散在せる、土塀墻壁に興味を惹かれてから久しい。

支那朝鮮國程、土に親しみ土を利用する國は他に少ないと思ふ。支那朝鮮國の人程大地を思はせるは無い。私の妄想は、支那朝鮮の國民性ほど土そのものゝ様な感じを起させるはない。

未だ見ぬ土の國、支那朝鮮國の土塀（又は之に代る可き墻壁類似のもの）を見んことを欲して止まぬ私の持つてゐる期待が必ずや、滿たし得る事と信じる。

荒漠たる平原を旅する心は、必ず血の様に眞赤な夕陽に染みた、泥土の墻壁に、思ひを惹かゝるに違ひない。

更に私は、私の心は又遠く〳〵海外異邦の、美の墻壁に、憧れる、羅馬、埃及、印度等の國土の上に、私はほしいまゝに丁度、春の野に咲き出た花菫の様な可憐、清鮮なる、或は廢墟の街より街を彷徨し、或は寒月の下、山上古城の、墻壁の美を夢想する。

讀者よ。どうぞお身達の紅茶にても、お飲みになる愉快なる、暫時にても、しがない私と同じ思ひに馳せて頂いたらどんなに幸福であることか。

墻壁は、自他の境界の意味に於て構築さるゝが墻壁徒らに高くして自他の境界愈々甚しきを世相人心の上に見る。之を歐米に見るに一部人士の庭園を公衆に開放せるあり、又多數は外部より翫賞なし得て行人の眼を慰さましむるに足ると言へり墻壁を構築するを攻むるに非ず、程度を考へざるを攻むれば即ち熄む。墻壁は、或は野趣横溢たる或は瀟洒たる、或は嚴然たる、或は、或は。墻壁は建物の裳裾、墻壁は門と共に、例へば個人の家にしては、至人の趣味教養を、雄辯に物語るものである。心ある人達の實をこゝに、注がるゝは、

敢て冗長なる本文に、依らずとも明白なるを信じる。

雪降るひとりゆく夜の松の葉に忍びがへしに雪ふりしきる。

私の書き綴らうとしたのは、この境地である。墻壁が、壁墻でなくなつて見える境地に、設計妙諦があることを考慮せねばならぬ。何事も悟道である。私達の歩む道は遠く、遙かだ。

山村の一劃、夜の土塀は、大地に的確なる一線を畫いて、永久に美の沈默を守つて居るであらう寂しい眼前の風景に、私は餘りにも饒舌に過ぎたかも知らない。（十二年十二月二十三日）

花になり實になる見れば草も木も

すべてつとめのある世なりけり

# 役員及職員

副會頭　片岡安
理事長　理事　池田寛
主記　理事　設樂貞雄
同　理事　中澤誠一郎
主計　理事　中村琢治郎
同　理事　松本禹象
編輯　理事　本田登
同　理事　佐藤彰美
同　理事　本多二郎
同　理事　伊藤正文
同　理事　田中綱

編輯係
江村郊邨
伊藤二世子
鷺取陽

庶務係
西谷節
鷺取陽

會計係
田村春松
大和榮衛

| 會員 | 三〇〇 | 會員（地方） | 一〇九 |
|---|---|---|---|
| 名譽贊助員 | 八六 | 終身贊助員 | 五五 |
| 特別贊助員 | 二九 | 普通贊助員 | 四七一 |
| 合計（現在二月二十日） | | | 一〇五〇 |

# 本誌及廣告料定價表

| 本誌 | 册數 | 定價 | 郵稅 | 廣告 | 種別 | 金額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一册 | 七拾五錢 | 貳錢 | | 半頁 | 八圓 |
| | | | | | 一頁 | 拾五圓 |
| | 十二册 | 九圓 | 貳拾四錢 | 料 | 特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ | |

（毎月壹回一日發行）

大正十三年二月廿八日印刷
大正十三年三月一日發行


發行兼編輯人　大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一　江村恒一
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所　大阪活版所
發行所　大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング　日本建築協會
電話北四一一九一一番
振替口座大阪三一九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番
特約販賣店

# 日本建築協會々報

# 日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成ノ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金叁百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ商業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ヲ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セントスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ除名スルコトヲ得

第九條　本會ハ會員ニシテ會費ヲ滯納シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ除名スルコトヲ得

第十條　股會其他ノ事由ニ因リ會員ノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長ヲ以テ理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭、副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員トスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ其選任ヲ停止シ若ハ之ニ職會ヲ諮詢シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ニ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ通告ス但急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行事左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　會誌ノ發刊

五　建築ニ關スル圖書ノ刊行

六　建築ニ關スル講演會ノ開催

七　建築ニ關スル展覽會ノ公開

八　建築ニ關スル視察

九　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十　理想的建築ニ關スル計畫

十一　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別贊助員ハ特別贊助員年額金九圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助員年額金六圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積立金ハ每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立金ハ每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會ノ會則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得




一、左記趣意書並規則書の通り府立東京商工奨勵館に於て來る五月一日より同三十一日迄帝都復興建築資料展覽會を開く趣で出品勸誘方を申越されました、就つて御出品あらんことを御勸め致します

## 帝都復興建築資料展覽會趣意書

未曾有の大震火災によりて、一時焦土と化したる我が帝都も、市民の不撓不屈なる奮闘努力によりて、今やバラックの建設相次ぎ、商工業復舊の緒に就くに至れるは、吾人の喜びに堪へざる處である。

然れどもバラックは勿論、是れ焦眉の急に應ずる假建築物に過ぎずして、復興計畫の進捗と共に、當然取り拂はるべきもの、其の期も決して遠くはない。

されば此の際、帝都の中樞となるべき商店工場と、住宅其他の建築につき、美觀と實用と能率との上に、遺憾なき研究を遂ぐるは、聽て本建築に取掛るべき人々の、先づ以て爲さざる可らざる用意ではあるまいか茲に見る處あり、建築資料展覽會を計畫し建築に關する一切の資料を蒐集展示して、店舗、工場其他の再築につき考慮しつゝある人々の參考に供し、併せて帝都の復興に資せんとするのである。

此の趣旨によりて開會せらるべき本會の出品物に關しては、重きを帝都の新生面を作るに必要なるものに置かんとするのである故に例へば我國舊來の壁建具等の如き勿論建築の一要素たるべしとは云へ、出陳の場所にも限度あり、是等は暫く除外したい。

要は必らずしも古くより普遍せるものなりとて尊ばず、帝都の面目一新に關し、其の有力なる資料たるべきものを喜んで迎へんとするのである。

亦上述必然の結果として、一般よりの出品物は、單に參考品として展示するに止る如きものを喜ばず、實際の取引を爲し得るの準備ある商品を歡迎し、其の取引に關しては、之を達成するに努めんとするものである。

要するに本會は帝都の復興に關し、最も權威ある示效機關、而して、あらゆる階級に與へらるべき唯一絕好の機會たるを信ぜんとするものである。仍ち本會開設の趣旨を述べ、廣く一般の贊同と後援とを仰ぐ次第である。

大正十三年一月

府立東京商工奨勵館
麹町區有樂町一丁目一番地
電話牛込 五一〇二番

## 帝都復興建築資料展覽會規則

第一條　本會は建築に關する資料を陳列展

示し講演會を開催し帝都の復興に資するを以て目的とす

第二條　本會は大正十三年五月一日より同廿一日まで之を開催す

第三條　本會々場は府立東京商工奬勵館とす

第四條　本會は東京府知事を會長とし同産業部長を副會長とす

第五條　出品は左の部類に分別す

一、建築材料

(イ)木材、竹材(ロ)石材、砂利、砂(ハ)粘土製品(燒瓦類、土管、テラコッタ瓦及陶磁器類(ニ)セメント幷にセメント製品(ホ)塗料(ヘ)金屬材料(ト)硝子(チ)壁材料(壁紙漆喰其他)(リ)屋根葺材料(ヌ)床材料(リノリユム、ゴム、コンク其他敷物類)(ル)防火材料、防水材料、防腐材料(ヲ)出來合造作建具及同部分品(ワ)其他

二、建築設備

(イ)煖房、換氣(ロ)冷藏(ハ)照明(ニ)防火(ホ)浴室、洗面所、炊事場其他衛生に關する裝置幷に器具(ヘ)エレベーターの類

三、施工機械並に器具

ミキサー、杭打機械、足代、クレーン等

四、家具並に室内裝飾

五、建築圖案、模型

構造、意匠、庭園

六、參考品

(イ)雜誌、書籍類、型錄(ロ)都市計畫に關する事項(ハ)規格に關する事項

第六條　出品せんとする者は出品申込書を四月十日迄に本會に提出すべし

第七條　本會は前條の申込に對し考査の上四月二十日までに出品の許否を通知す

第八條　出品者は指定期日迄に左の出品料を本會に納付すべし

一、館内陳列箱

一小間(間口四尺奥行二尺五寸)　十圓

二、館内露出陳列　一坪　十五圓

三、屋外陳列　一坪　五圓

第九條　參考品及營利を目的とせざる出品は出品料を徵せず

第十條　出品物は搬入目錄を添へ四月二十日より二十八日までに會場に搬入し陳列裝置を完了すべし

第十一條　出品物の搬入、搬出、荷造及陳列裝飾其他に必要なる費用は凡て出品者の負擔とす

第十二條　實演に要する電力瓦斯及水は凡て無料とす、但し其の數量及使用時間は本會設備の範圍内に於て其の許否を決す

第十三條　出品人は出品物の說明、取引契約等の爲其同若くは單獨に說明人又は看守人を置く事を得

第十四條　出品物の保管は本會に於て相當の保護監督を怠らざるも天災盜難損傷等による損害に對しては本會其の責に任ぜず

第十五條　本會出品物は現品を見本として取引の契約を爲すことを得

契約を爲したるものは毎日本會に其の取引契約高を屆出づべし

第十六條　本會は別に定めたる懸賞規定により建築圖案を募集す

第十七條　出品物は之を審査せず但し懸賞圖案を除く

第十八條　出品物は本會閉會後七日以内に撤退搬出し出品の爲毀損したる箇所は修理復舊すべし

右期間に搬出復舊せざるときは本會に於て適宜之を處置し是が爲め費用を要したる時は出品人をして負擔せしむ

第十九條　觀覽は毎日午前八時より午後四時迄とす、但し時宜に依り之を變更することあるべし、

第二十條　觀覽料は左の如く定む

大人一人　金二十錢

學生及小兒(七歲以上十五歲未滿)　金十錢

第廿一條　本規則に規定せざる事項と雖本會の指揮に背く事を得ず　以上

一、右帝都復興建築資料展覽會に陳列の目的で今回府立東京商工奬勵館主催で左記規定によつて商店及店頭計畫圖案の競技募集をはじめて居ります會員賛助員各位の御つて應募されんことを希望します

## 商店及店頭計畫圖案競技募集規定

一、帝都の復興に資する爲め左記二種の計畫圖案を募集す
（甲）商店（住居を含む）計畫圖案
（乙）店頭計畫圖案
二、敷地　前面幅十一メートル道路に面し間口十メートル奥行廿五メートルとす
三、堺壁　隣建物と共通に計畫するも差支なし
四、高さ　（甲）地階付三階若くは四階
五、構造　（甲）鐵筋コンクリート耐火構造
（乙）任意
六、工費　任意、但し圖面中に概算を明記せられたし
七、所要圖面（甲）各階平面圖正面圖斷面圖各縮尺百分の一
（乙）平面圖正面圖各縮尺二十分一
八、說明　甲乙二案共商店の業別、設備構造の說明は總て圖面中に詳記し說明書を添附せざること
九、用紙　製圖紙とし（着色紙にてもよし）大さはワットマン半切大とす
十、仕上　任意とす
十一、姓名　署名又は匿名任意但し匿名の場合には別に住所姓名を明記せる紙片を封入し封筒の上に暗號を記し添付されたし
十二、賞金
金賞　各五百圓　三人
銀賞　各三百圓　五人
十三、審査員
岡田信一郎　内藤多仲
堀越三郎　渡邊仁
十四、締切　應募圖案は四月二十五日正午迄に府立東京商工奬勵館に提出せられたし
十五、陳列　應募圖案は審査員鑑査の上五月一日より同廿一日迄帝都復興建築資料展覽會に陳列す
十六、審査發表　五月十日右、展覽會に於て審査結果を發表す
十七、返附　當選せざるものにして圖案の返還を希望するものは閉會後六月十日迄に受取書引換に東京商工奬勵館に於て返附す
注意　甲乙二案を應募せんとするものは各別に應募手續を取られたし
大正十三年二月
府立東京商工奬勵館
東京市麹町區有樂町一丁目一番地
電話牛込五一〇二番

一、今回建築業協會から關東地方大震火災に付て左記の通決議を爲したと云ふ通知がありましたから御參考の爲揭載いたします

## 震火災に因る請負工事損害に關する決議

### 決議要旨

今次未曾有の震災に際し災禍を蒙りたる施工中の建築物は事實上自然の暴威力は請負工事の續行を不能に陷らしむるの結果となれり故に罹災地方に於て施工せらるべき請負工事にして震災の發生せる大正十二年九月一日以前に締結せられたる請負契約は當日を以て之を中斷し解除すべきものとす
但本文の契約解除に付ては註文者は九月一日災禍當時に於ける既成工事及現場持込特定材料に基き之れに相當する請負金額を請負人に交付し其他の損害は契約當事者各自の負擔とす

理由

一、契約解除
惟ふに今回の災禍は眞に曠古の事變にして其被害の程度極めて甚大なり爲に諸般の機關全然停止の狀態に陷り工事中の諸作業殆ど全部此災禍に罹れり而して世態の實況は運送機關の杜絶動力の不給職工の離散等總て震災前に於て何人も夢想せざりし所にして如何に最善を盡すと雖も到底工事の進行を許さず事實上契約の履行を不能ならしめたり實情既に如斯にして之が原因は當事者の責に歸すべからざる事由に因り不能を來したるものなるが故に工事進行中のものにして契約の履行完了せざるものは今回の災

害に依り自然解除せられたるものと見るを至當とす

一、請負責任の程度

元來建築請負の場合に於て註文者に提出する主要なる条件は工事期限と請負金額なり而して期限は暴風雨等の災害に對し過去の經驗統計のより計算し金額は當時に於ける市場の供給相場を基準とし算出するを常態とす又火災の損害に對しては保險會社に信頼しこれと約締結する事を以て其損害を補塡する最善の方法なりとなし之れを責任の限度とし夫以上を豫期計算することは不可能にして且つ當事者の豫想せざる所なり、而して當事者は工事の請負契約を締結するに際しては右の事情默認の裡に實行したるものにして其の程度を超越するに於ては契約の成立不可能なることは各自の是認する處なり、故に普通の請負契約なるものは履行の可能性ある場合に於ては之に依りて處理すべきものなりと信ずれども今回の如く其程度を著しく超越したる災禍は歷史上極めて稀にみたる不可抗力にして所謂履行の可能性を缺くものなるが故に之に因る責任を請負人に歸すること不合理なり

一、損害負擔

前述不可抗力に因る損害を何人が負擔すべきかの問題は其根本に遡り建築の請負契約の動機及建築の業態に依り解決するを以て至當とす抑も建築の目的物は全然註文者のみ希望し必要とするものにして之を得て滿足し利益あるものは註文者を措いて他に求むることを得ず從て註文者は之に對し何處までも責任を負擔せざるべからざることは極めて見易き道理なり特に建築の業態を見るに請負者は註文者の依囑を受け註文者の指定する位置に指定する時期に於て註文者の利益の爲に施工するものにして他の容易に聽々し得べき物件の工作々業等の請負と著しく其趣を異にし全然註文者の意思に從ひ作業すべき狀態に在り而して之が作業中適々今回の如き人力を以て如何ともすべからざる災禍に遭遇したるものなるが故に請負者に於て善良なる注意を施したるにも不拘尙其災害を受けたるものに對しては註文者に於て負擔するを妥當なりと信ず然らば作業中の工事損害は災禍當日即ち九月一日現在の既成工事及現場持込材料に相當する請負金額は註文者より請負者に交付し其他の損害は當事者の協調によるを最も適當なる處置とす　以上

大正十二年十一月十五日

建築業協會

東京市京橋銀座町十二番地

實業ビルヂング三階

## 會務

一、本協會主催にて第四回講習會を來る三月十九日より向ふ十日間大阪市立工業學校内で開催することに決定致しました次第書並聽講規程は別紙特別會告の通てありますから御勸誘下されて多數の聽講を希望致します

一、本協會新入會者の爲に當分の間入會金を免除することに本年二月の例會に於て決議なりました（此別紙會告の通）會員諸君の新入會者御勸誘を切に希望致します

## 會合

### ○臨時理事會

△日時　一月十七日午後四時半より五時三十分

△會場　本協會會議室

△出席者　片岡副會頭、池田理事長、中澤理事、中村理事、松本理事、本多理事、伊藤理事、田中理事

△議事　一、大正十三年度收支豫算に關する件

原案の通可決し例會に報告のことに決せり

一、會員募集に關する件

會員入會勸誘に付意見の交換をなす

一、池田理事長より主記、主計編輯の各役員に對する希望を述へ意見の交換をなせり

一、財團法人組織委員會開催に關する件

一、會員銓衡

## ○例　會

△日　時　一月十七日――午後六時より九時十分
△會　場　大阪市中央公會堂中集會堂
△出席者　(役員)片岡副會頭、池田理事長、中澤理事、中村理事、松本理事、本多理事、伊藤理事、田中理事(會員)古宇田實、谷民藏、竹中景一、谷田實、友田薫、長田岩次郎、森本藤吉、安井武雄、吉井長七、池田谷久吉、坪井誠二、森篤次郎、高田利一郎、宮本長治の諸氏

記事

定刻池田理事長座長席に着き開會を宣し本年度の役員事務分掌の報告をなして後理事長就任の挨拶をなす夫れより大正十二年度事業報告をなし所感と希望とを述ふ

一、當本前任主計より大正十二年度收支決算及震災調査費支出經過に付報告説明あり二三の質問ありたり

一、右了つて池田理事長より前任理事の總ての事務引繼はこれを以て終了の旨報告あり

一、次に中村新任主計より大正十二年度收支豫算報告並説明あり

一、尚池田理事長より左の報告ありたり

1、關東震災調査報告書作成經過報告

2、會務報告

3、教化委員會委員氏名

一、本夕出席者會則の員數に滿さる爲決議事項を次回となし右報告後本會の發展策に付意見を交換して散會す

## ○教化委員會

△日　時　一月三十日午後九時―八時
△會　場　本協會會議室
△出席者　(委員)井上新二、小笠原銅、園部文雄、野呂長四郎、古宇田實姫野武(役員)池田理事長、設樂理事、中村理事の諸氏

△記　事

一、委員長の決定迄池田理事長座長たる旨を述へ本委員會設置の理由を説明し併せて委員の選擇に付ての意見及將來の希望を述ふ

一、委員長互選の結果滿場一致を以て左の通決定

委員長　古宇田實氏

一、古宇田氏承諾の上座長席に着き一場の挨拶をなす

一、役員側として池田理事長より教化委員會の事業としては種々あり委員各位の御熟考を願ふ次第なるも左の件の如きは是非研究實行ありたき希望を述ふ

(件名を略す)

一、左の件に付擔當者を定め實行に取りかかることに決せり

1、講習會に關する件　野呂　委員
2、職工教化に關する件　野呂　委員
3、出張講演に關する件　園部　委員
4、中等學校の建築科の內容調査の件　姫野　委員

一、右終りて次回の開會日を決定して散會せり

## ○教化委員會

△日　時　二月七日午後五時――九時
△會　場　本協會會議室
△出席者　(委員長)古宇田實(委員)井上新二、園部文雄、野呂長四郎、酒井勇三郎、澁谷五郎、姫野武の諸氏(役員)池田理事長、中村理事の諸氏

△記　事

一、古宇田委員長より前回本委會の經過報告後議事に入る

一、第四回講習會計畫案は原案の通可決し理事會に報告することに決す

一、右講習會講師選定に付候補者を協議決定せり

一、本委員會幹事を選定するこ

となり委員長より左の通指名決定す

幹事　園部　文雄氏

一、本委員會の定例日を當分月二回とし左の通決定す

第一水曜日　協會例會日

一、出張講演に關する件、職工教化に關する件其他に付意見の交換をなし散會せり

## ○理事會

△日　時　二月八日午後五時――九時

△會　場　本協會會議室

△出席者　池田理事長、中村理事、本多理事

△議　事　一、春季大會に大講演會開催並臨時大會委員設置の件
原案可決し例會に附議することに決す

一、二月例會に關する件
講演者の件議事の件に付決定せり

一、博覽會本館賣却代金收受に關する件

一、圍碁將棋盤等購入の件　可決

一、第四回講習會に關する件

一、職工教化委員會より報告の原案通可決　承認

一、横濱勉氏委員辭退の件承認

一、會員銓衡

## ○新入會員

（會員）本田林八君、南孝三君、矢田鐵藏君、久木堅治君、中根龜一君、芦澤浩、日比安平君、加藤芳太郎君、小原力君、三浦儀市君、小田島兵吉君、高麗建城君、福永收三君、岩佐彌太郎君、阪上竹次郎君、西澤藤生君、平松英彦君、玉川卓一君、黒住福三郎君、宇部宮邦士君、黒田茂君、吉川勝君、高田理平君、海老政一君、

（地方會員）井出松藏君

（普通贊助員）江崎專太郎君、工藤壽男君、島村繁君

## ○退會者

（會員）勝田元泰君、森田孟睦君

（普通贊助員）田中伊義君、守田米一君、占部定一君、增井敬君、德光文七君、上出修一君

## ○死亡者

（地方會員）秋吉金德君

（普通贊助員）八尾金一君

## ○住所、勤務先移轉

保田虎太郎君　大連市久方町九

松井　角平君　東京市京橋區金之町一二番

武安　笑吾君　兵庫縣武庫郡芦屋笠塚

小關　森市君　横濱市不老町三丁目二一五

谷口　惠一君　佐治方

玉川　芳夫君　兵庫縣武庫郡鳴尾村向關二六

船本　善君　東京市麹町區永樂町一丁目

福井　義長君　大林組東京支店

淺野貞治郎君　滋賀縣膳所町絹織株式會社工場内大林組出張所

好岡　亨君　兵庫武庫郡今津町津門

山崎　孝麿君　大阪市西區新池田町二番地

野村亥之助君　大阪市西區區三軒家上ノ町二七長尾繁都方

松村　次郎君　西成郡中津町成小路七一四

福山　七二君　大阪市東區北濱四丁目三五

川崎保太郎君　大阪市東高津北ノ町九〇中島方

田原　政見君　大阪市北區堂島濱通二丁堂島ビルチング東京電氣株式會社大阪出張所

酒井勇三郎君　愛媛縣今治市柳町大阪合同今治支店

齊藤小三郎君　岸和田市亞松町四〇八

上田喜三郎君　西成郡鷺洲海老江二〇五

井奥　進君　京都醫科大學附屬病院構内大林組京都帝大病院出張所

大阪市西區江戸堀下通一丁目一〇七

大阪市北區善源寺町市立工業學校建築場大阪市役所出

張所

本島　正男君　千葉市寒川新宿一〇四

田原三千男君　岸和田市並松町四〇八田原

政見方

若宮　虎吉君　兵庫縣尼ヶ崎市築地町小島

三九五

村上　新一君　沼津市高島町

和田信　君　東成郡鶴橋町天王寺五八二

八

毛利　泰三君　兵庫縣武庫郡大社村森具御

茶家所六六八

小河吉之助君　東京市麻布區永倉町四丁目

一二小林富藏方

高濱　利道君　東京市京橋區三十間堀三丁

目三鴻池組内

喜多　福松君　岐阜市金寶町一丁目

## ○改　姓

普通贊助員山中豊三郎君ハ山下豊三郎ト改姓

## ○職員異動

書記清川伊佐二月二十九日辭任

## 寄贈圖書

土木建築　二號　日本實業興信所

新報建築論報　二號　同社

住宅　二號　住宅改良會

庭園　二號　同協會

建築新潮　二號　洪洋社

建築の普及　一號　帝國工業教育會

大阪土木建築業組合報　五十號　同組合

住宅研究　一號　文化建築社

朝鮮と建築　一號　朝鮮建築會

滿洲建築協會雜誌　一號　同協會

工業評論　一號　同社

工業ノ大日本　一號　工業ノ日本社

電氣評論　一號　同社

電氣學會雜誌　一號　同學會

工政　一號　工政會

名古屋工業會報　十三號　同社

郊外の大阪　三號　郊外の大阪社

大阪工業倶樂部　一號　同倶樂部

都市公論　二號　都市研究會

國民經濟雜誌　第三十五卷第六號　寶文館

通俗衛生　一號　大阪府衛生會

人と人　二號　協調會

都人　第二光都人社

## ◉出版物に就いて

曩に廣告致しました關東地方震火災視察報告書は目下編纂中にして遠からず發刊のことに取運びますから御承知置きを願ひます

日本建築協會

## ●第七集第三号　掲載広告一覧（掲載順）

岩住金庫鉄工所
日本エレベーター製造
大野正営業所
佐倉金庫店
阿部鉄工所
MIDORI SHOKAI
飾磨化学工業
大塚鉄工所
瀧山商店
南満鉱業
丸三セメント工業
日本ペイント製造
ポール　イー・サンマン事務所
特許エレベーター製作所
ムツ商会
小谷商店
田中昌司商店

二和商会
野沢幸三郎商店
文化工業
石綿スレート
吉岡商店
高谷商店
山本東作商店
田村商会
建築金物商会
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会
今井硝子店
横河橋梁製作所
大平工業所
HANKEN SEISAKUSYO
井筒政蔵商店
日本ホロタイル

森川組
佐伯捨次郎製作所
大福海上火災保険
桜興業
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所

国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所
前田松本建築事務所
西原衛生工業所
大阪ゼトロライト工事
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新

---

佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
辰巳吉之助
清水組大阪支店
森本建築社
銭高組
清水福太郎
大阪青写真調製所
山田大理石製作所

---

矢橋大理石商店
須賀商会
高島屋呉服店
コルク工業
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
日本木材工芸
大理石工業
ベニス工房
木下商店
城口汚水処理研究所大阪支店
米本栄商店

田中タイリング商会
浜口商店
大阪耐火リノリウム工業
岩崎商業
小野田セメント製造
日本建築紙工大阪出張所
日本工剤
高田商会
大阪窯業
桐田商会
政正
関西ステインド硝子製作所
旭硝子
淡陶
川崎工場
日米板硝子
山中商会
北小林酒井衛生工業部
サカイブン建築鉄工所

---

東京電気
梅原組
西孫南店
内外土木建築材料
吉田鉄工所
小野田屋根瓦製造所
佳住屋商店
境川文庫
岡部商会
田中源太郎商店
極東板硝子工業

---